

# 活用編：すぐに利用できる機能を使ってみよう

活用編では、これまでにご紹介してきた標準コンポーネントを組み合わせ、実際に利用できる機能をご紹介します。

## ◆目次

活用編：すぐに利用できる機能を使ってみよう .....	1
LESSON. 14 テーブルとガントチャートの機能を拡張しよう .....	2
Step.1 テーブルに列を追加.....	2
Step.2 テーブルに行を追加.....	11
LESSON. 15 テーブル機能を拡張しよう .....	19
Step.1 階層的な画面編集 .....	19
Step.2 ボタンとテーブルで構成された画面 .....	20
Step.3 データの型 .....	30
Step.4 列ごとの機能.....	32
Step.5 選択解除.....	35
Step.6 行を追加する.....	39
Step.7 サブルーチン.....	42
Step.8 ボタンの有効化・無効化 .....	43
Step.9 行を削除する.....	52
Step.10 選択されている行を上・下に動かす .....	56

## Lesson.14 テーブルとガントチャートの機能を拡張しよう

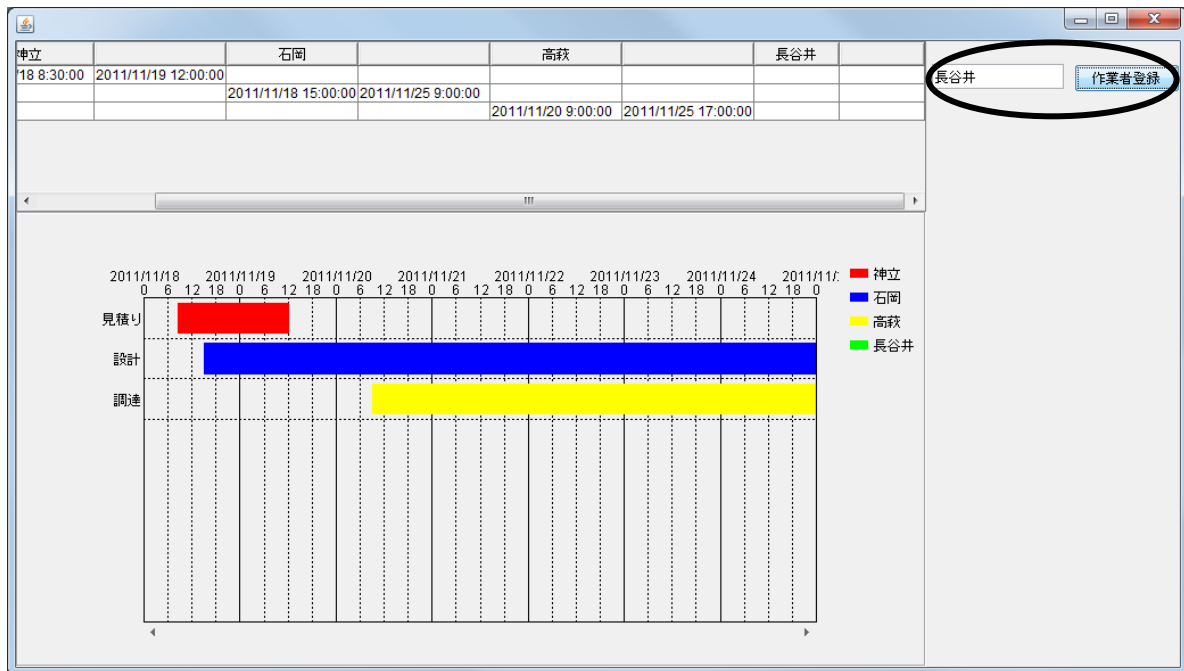
Lesson. 11 で作成したテーブルとガントチャートの機能を拡張してみましょう。

### Step.1 テーブルに列を追加

テーブルに氏名 (列) を追加できるボタンを作成しましょう。

#### 完成図

右側に列追加ボタンを作成します。



#### 考え方

1. ボタンがクリックされたら (押されたら) 列を 2 列追加したい。
2. 列追加ボタン (ここでは [作業者登録] ボタン) を作成するため [ボタン] コンポーネントを追加する。
3. 作成する列名を取り込むフィールドを用意するため [テキストフィールド] コンポーネントを追加する。

#### 準備

ここでは以下のコンポーネントを追加します。

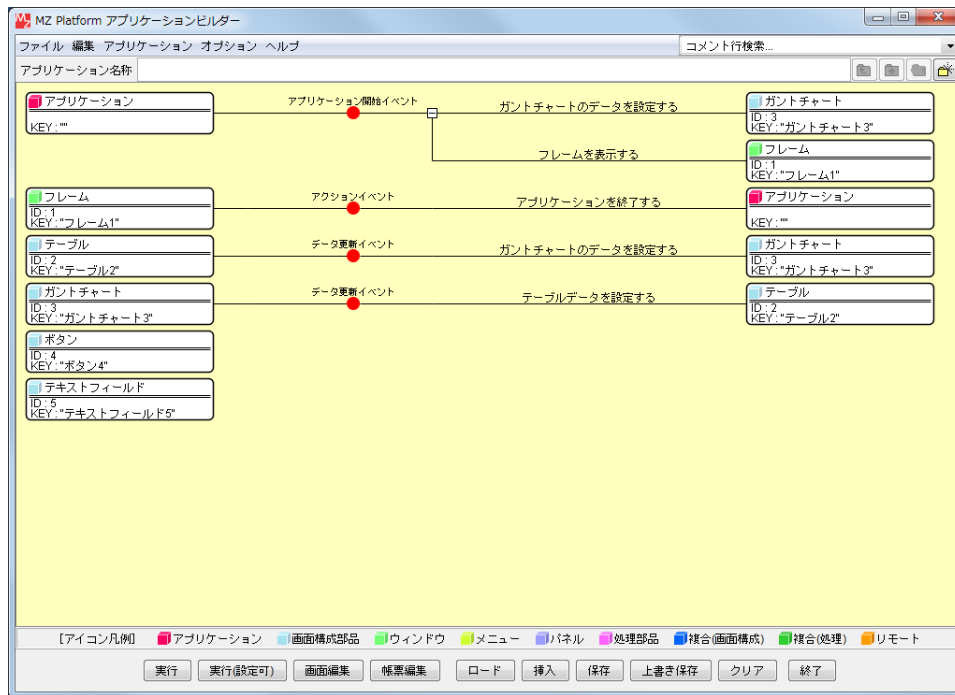
コンポーネント名	必要数	
■ ボタン	1	[画面構成部品] - [ボタン] - [ボタン]
■ テキストフィールド	1	[画面構成部品] - [テキスト] - [テキストフィールド]

## 操作

列追加ボタン、列名入力フィールドを追加しましょう。(Lesson. 11 のファイルに追加します)

### ① 必要なコンポーネントを追加します。

作業領域で右クリックー [コンポーネント追加] - [画面構成部品] - [ボタン] - [ボタン]、  
作業領域で右クリックー [コンポーネント追加] - [画面構成部品] - [テキスト]  
ー [テキストフィールド] と順にクリックし追加します。



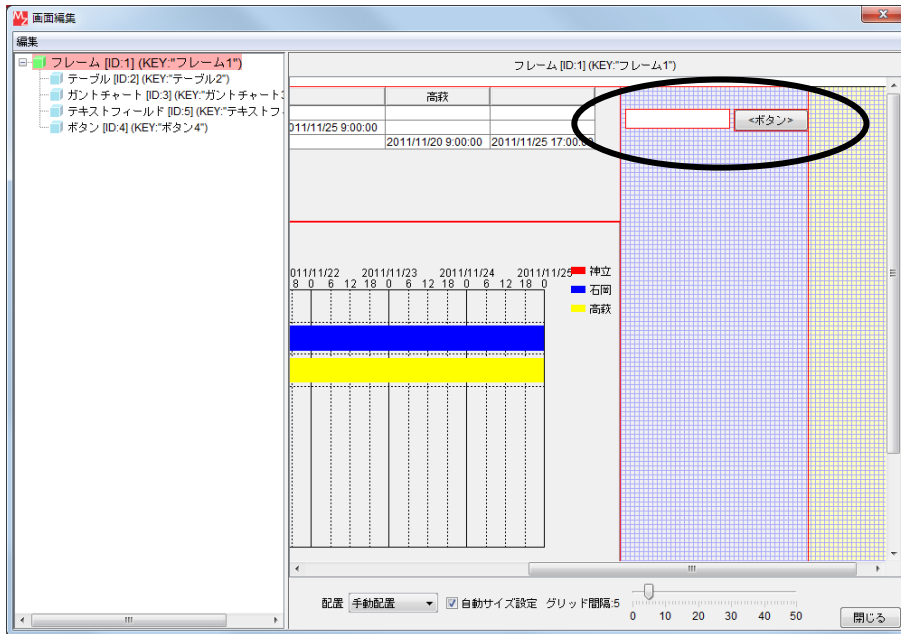
## 画面編集

- ① 画面を作成します。

**画面編集**をクリックします。

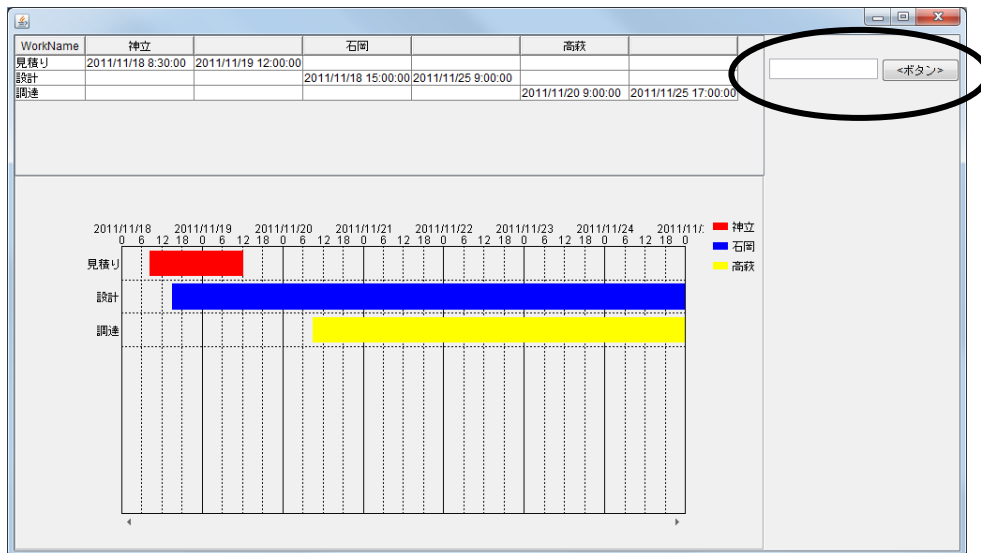
[ボタン] コンポーネント、[テキストフィールド] コンポーネントをフレームに追加します。  
配置方法を [手動配置] にして体裁を整えます。

**閉じる**をクリックしてビルダー画面に戻ります。



- ② コンポーネントが追加できたことを確認します。

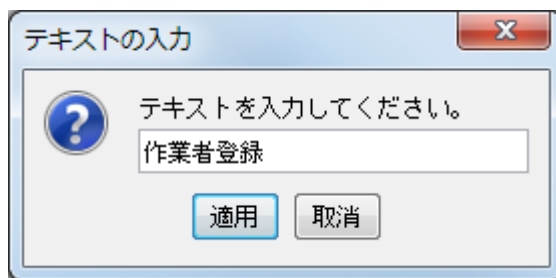
**実行 (設定可)** で実行します。



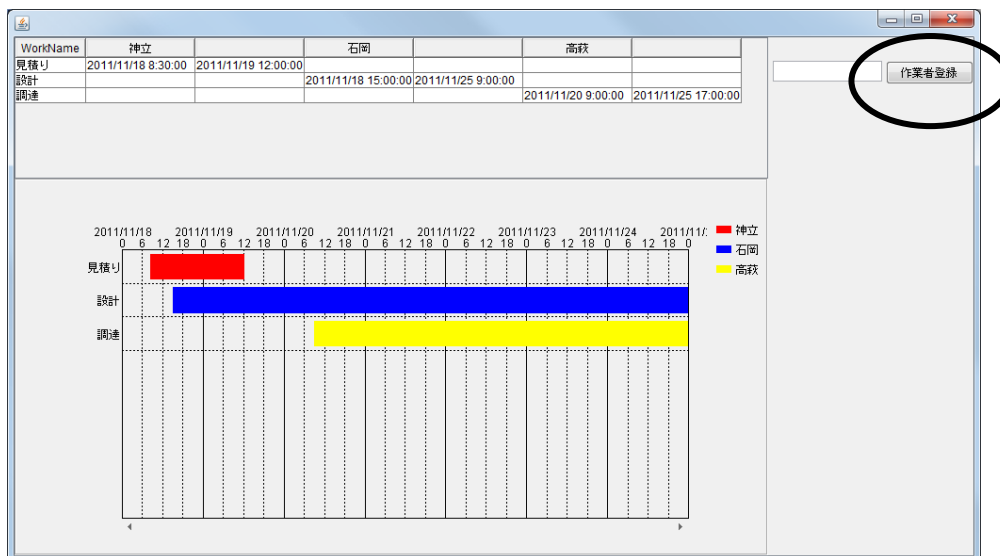
- ③ [ボタン] の名前を変更します。

[ボタン] コンポーネントの上で右クリック - [テキスト] をクリックします。

「<ボタン>」を消して「作業登録」と入力し **適用** をクリックします。



④ ボタン名が変更されます。



### 接続確認

コンポーネント同士の接続を確認します。

追加する列の情報（列名）を得て列を追加する①

接続項目	接続関係
接続元コンポーネント (イベント発生コンポーネント)	■ ボタン (ID:4, Key:作業者登録)
発生イベント	アクションイベント
接続先コンポーネント①	■ テーブル (ID:2)
起動メソッド	列を追加する (String, Class)
<引数0>	説明: 列名 取得方法: メソッド戻り値 コンポーネント: テキストフィールド メソッド/値: テキストを取得する
<引数1>	説明: 列型 取得方法: 固定値 メソッド/値: java.util.Date

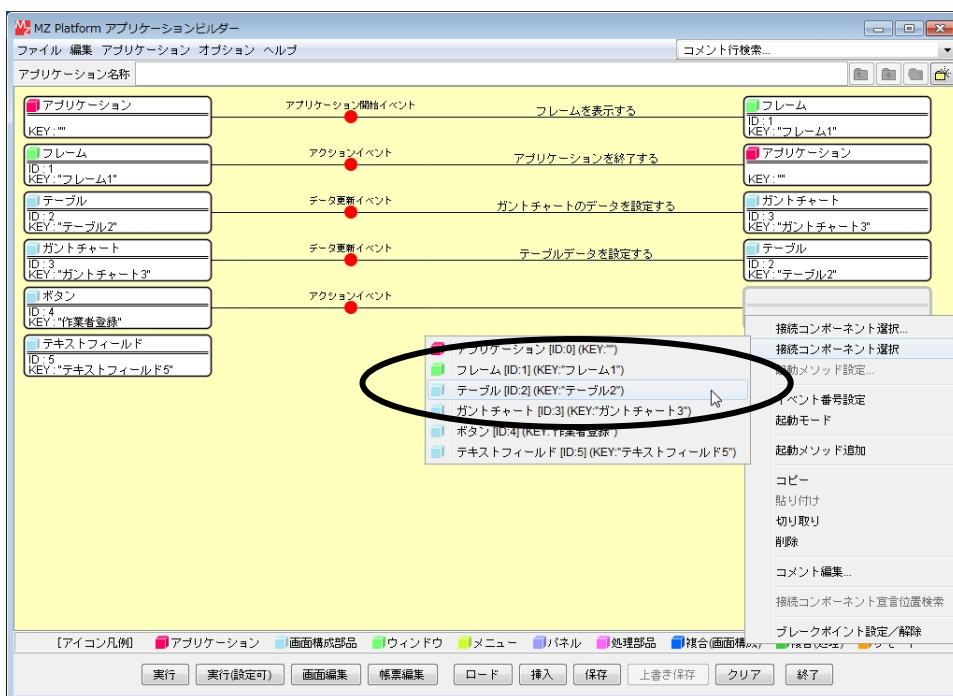
情報（列名）のない列を追加する②

接続先コンポーネント②	■ テーブル (ID:2)
起動メソッド	列を追加する (String, Class)
<引数 0 >	説明：列名 取得方法：固定値 メソッド/値：空白
<引数 1 >	説明：列型 取得方法：固定値 メソッド/値：java.util.Date

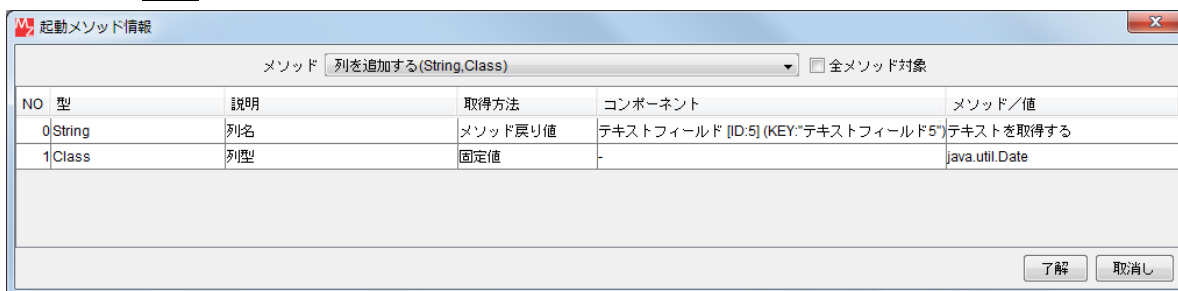
**操作**

追加する列の情報（列名）を得て列を追加する①

- ① 使用するイベントを選択し、コンポーネントを接続する準備をします。  
 左側の [ボタン(ID:4)] コンポーネントの上で右クリック [イベント処理追加] - [アクションイベント] とクリックします。
- ② イベントの接続先コンポーネントを選びます。  
 左側の [ボタン(ID:4)] コンポーネントの [アクションイベント] 上で右クリック [起動メソッド追加] とクリックします。薄灰色の四角い枠が追加されます。右側に追加された薄灰色の四角い枠にコンポーネントを割り当てます。右側に追加された薄灰色の四角い枠の上で右クリック [接続コンポーネント選択] - [テーブル(ID:2)] コンポーネントをクリックします。



- ③ 接続したコンポーネントの処理を選びます。  
 接続したコンポーネントの上で右クリックー [起動メソッド設定...] をクリックします。  
 起動メソッド設定画面が表示されます。  
 起動メソッド (処理) を選びます。  
 [メソッド] の  をクリックします。  
 [列を追加する (String, Class)] をクリックします。  
 引数 0 を設定します。  
 説明 : 列名  
 取得方法 : メソッド戻り値  
 コンポーネント : テキストフィールド (ID:5)  
 メソッド/値 : テキストを取得する
- 引数 1 を設定します。  
 説明 : 列型  
 取得方法 : 固定値  
 メソッド/値 : java.util.Date
- 設定後、 ボタンをクリックします。



——情報 (列名) のない列を追加する②——

- ④ イベントの接続先コンポーネントを選びます。  
 左側の [ボタン (ID:4)] コンポーネントの [アクションイベント] 上で  
 右クリックー [起動メソッド追加] とクリックします。  
 薄灰色の四角い枠が追加されます。  
 右側に追加された薄灰色の四角い枠にコンポーネントを割り当てます。  
 右側に追加された薄灰色の四角い枠の上で右クリックー [接続コンポーネント選択] —  
 [テーブル (ID:2)] コンポーネントをクリックします。
- ⑤ 接続したコンポーネントの処理を選びます。  
 接続したコンポーネントの上で右クリックー [起動メソッド設定...] をクリックします。  
 起動メソッド設定画面が表示されます。  
 起動メソッド (処理) を選びます。  
 [メソッド] の  をクリックします。  
 [列を追加する (String, Class)] をクリックします。  
 引数 0 を設定します。  
 説明 : 列名  
 取得方法 : 固定値  
 メソッド/値 : 空白
- 引数 1 を設定します。

説明：列型

取得方法：固定値

メソッド／値：java.util.Date

設定後、**了解**ボタンをクリックします。

NO	型	説明	取得方法	コンポーネント	メソッド／値
0	String	列名	固定値	-	
1	Class	列型	固定値	-	java.util.Date

⑥ 確認します。

**実行（設定可）**で実行します。

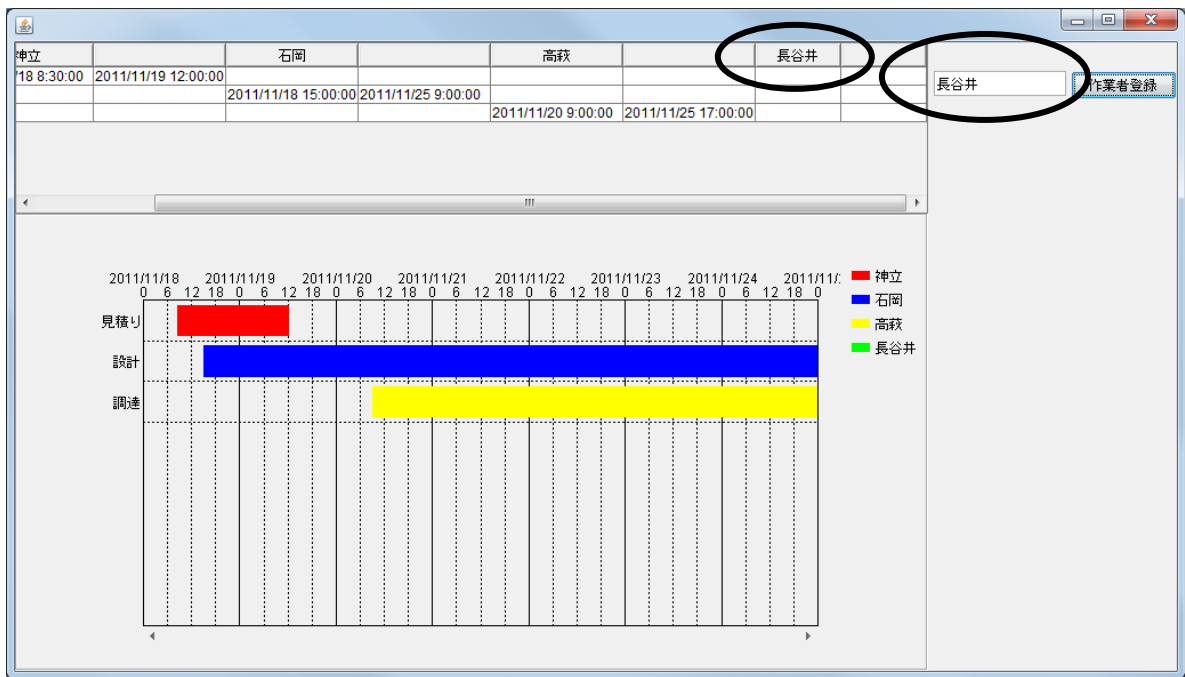
[作業者登録] ボタンと入力領域ができます。

WorkName	神立	石岡	高萩
見直し	2011/11/18 8:30:00 - 2011/11/19 12:00:00		
設計		2011/11/18 15:00:00 - 2011/11/25 9:00:00	
調達			2011/11/20 9:00:00 - 2011/11/25 17:00:00

⑦ 名前を入力し、[作業者登録] をクリックします。

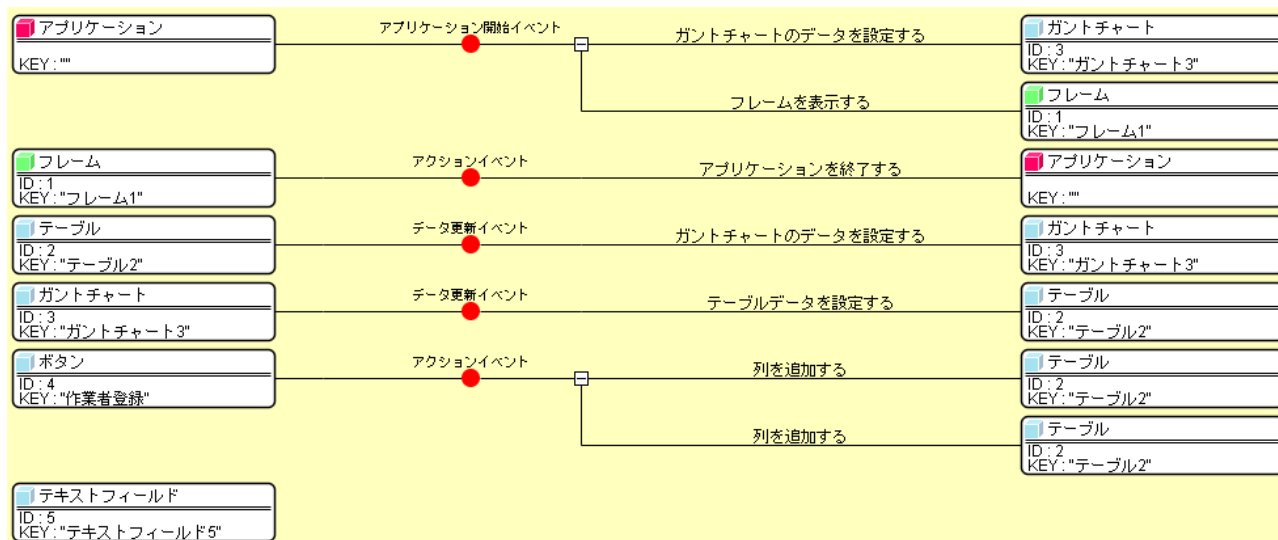
テーブルに2列追加されます。





## まとめ

ここまで進めるとビルダー上では以下ようになります。

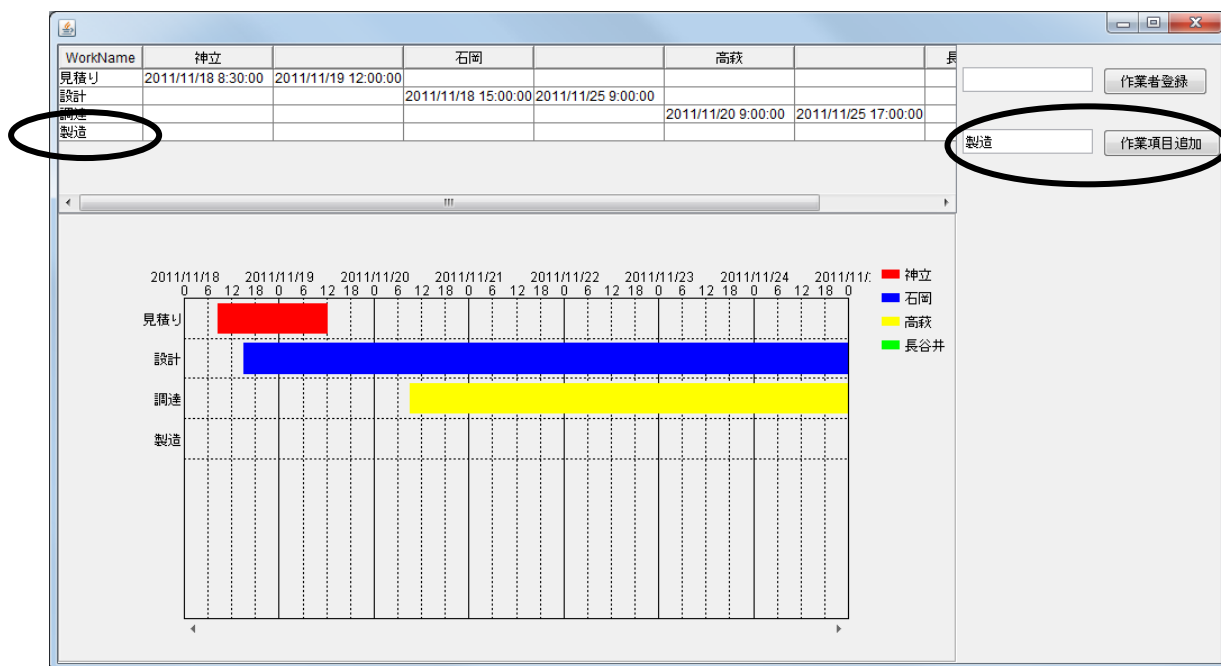


## Step.2 テーブルに行を追加

テーブルに WorkName (行) を追加できるボタンを作成しましょう。

### 完成図

右側に行追加ボタンを作成します。



### 考え方

1. ボタンがクリックされたら (押されたら) 行を追加したい。
2. 行追加ボタン (ここでは [作業項目追加] ボタン) を作成するため [ボタン] コンポーネントを追加する。
3. 作成する行名を取り込むフィールドを用意するため [テキストフィールド] コンポーネントを追加する。

### 準備

ここでは以下のコンポーネントを追加します。

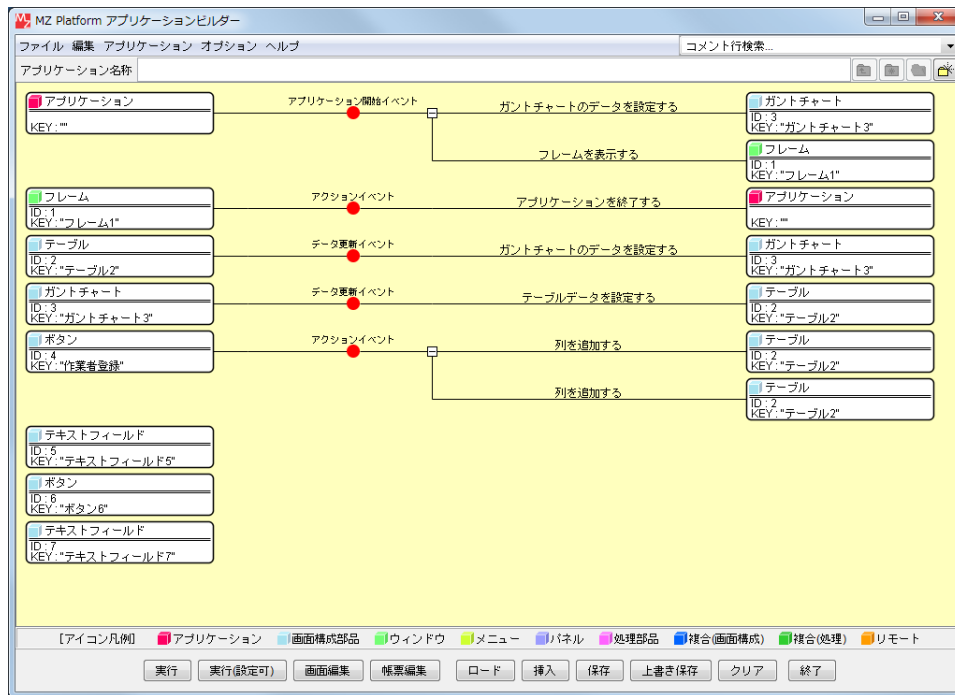
コンポーネント名	必要数	
■ ボタン	1	[画面構成部品] - [ボタン] - [ボタン]
■ テキストフィールド	1	[画面構成部品] - [テキスト] - [テキストフィールド]

## 操作

行追加ボタン、行名入力フィールドを追加しましょう。

- ① 必要なコンポーネントを追加します。

作業領域で右クリック - [コンポーネント追加] - [画面処理部品] - [ボタン] - [ボタン]、  
作業領域で右クリック - [コンポーネント追加] - [画面処理部品] - [テキスト]  
- [テキストフィールド] とクリックし追加します。



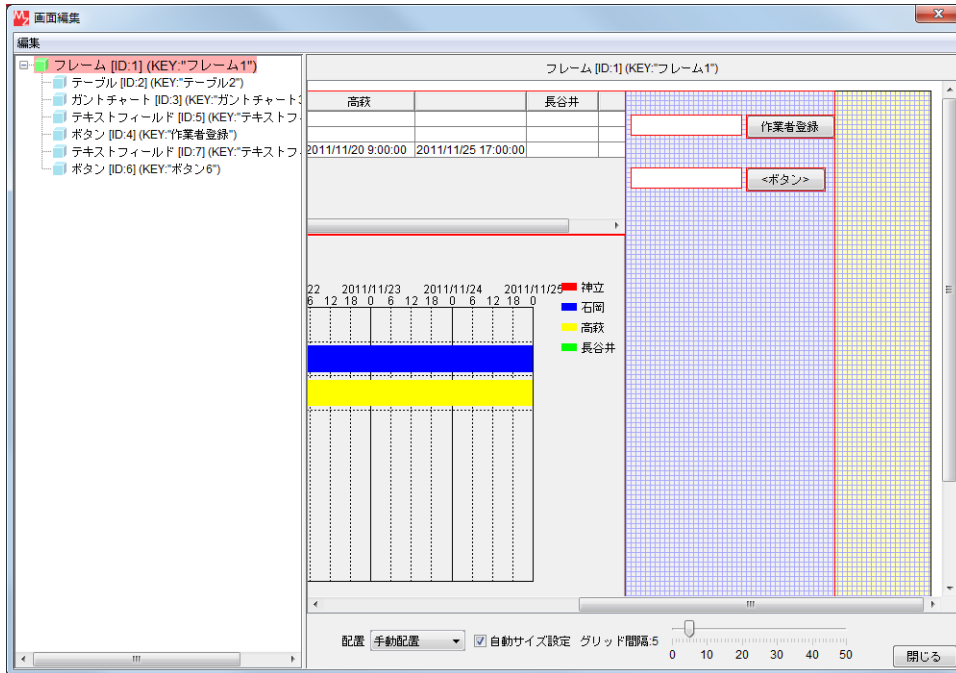
## 画面編集

① 画面を作成します。

**画面編集**をクリックします。

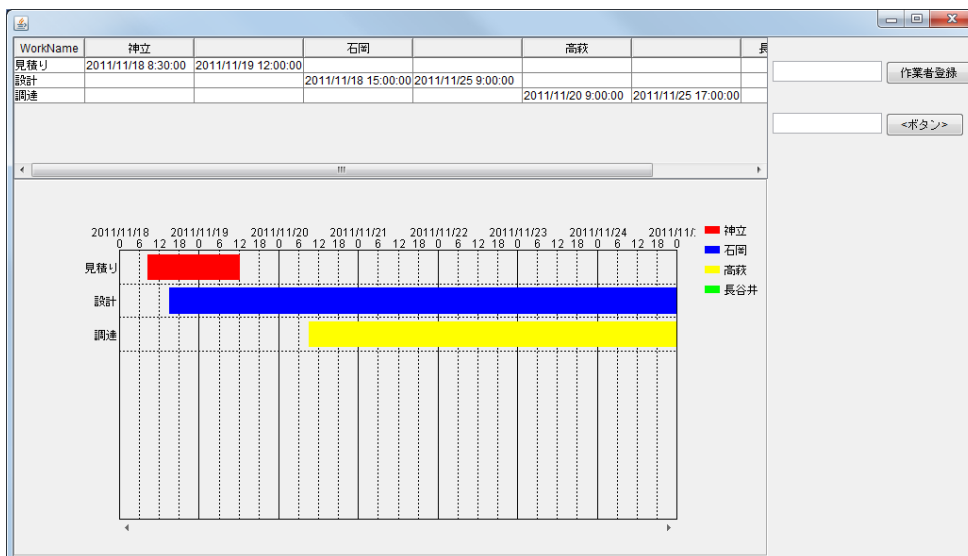
[ボタン] コンポーネント、[テキストフィールド] コンポーネントをフレームに追加します。

**閉じる**をクリックしてビルダー画面に戻ります。



③ コンポーネントが追加できたことを確認します。

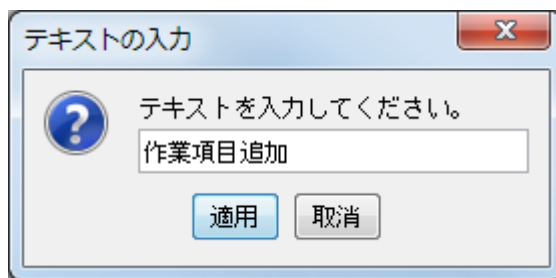
**実行 (設定可)** で実行します。



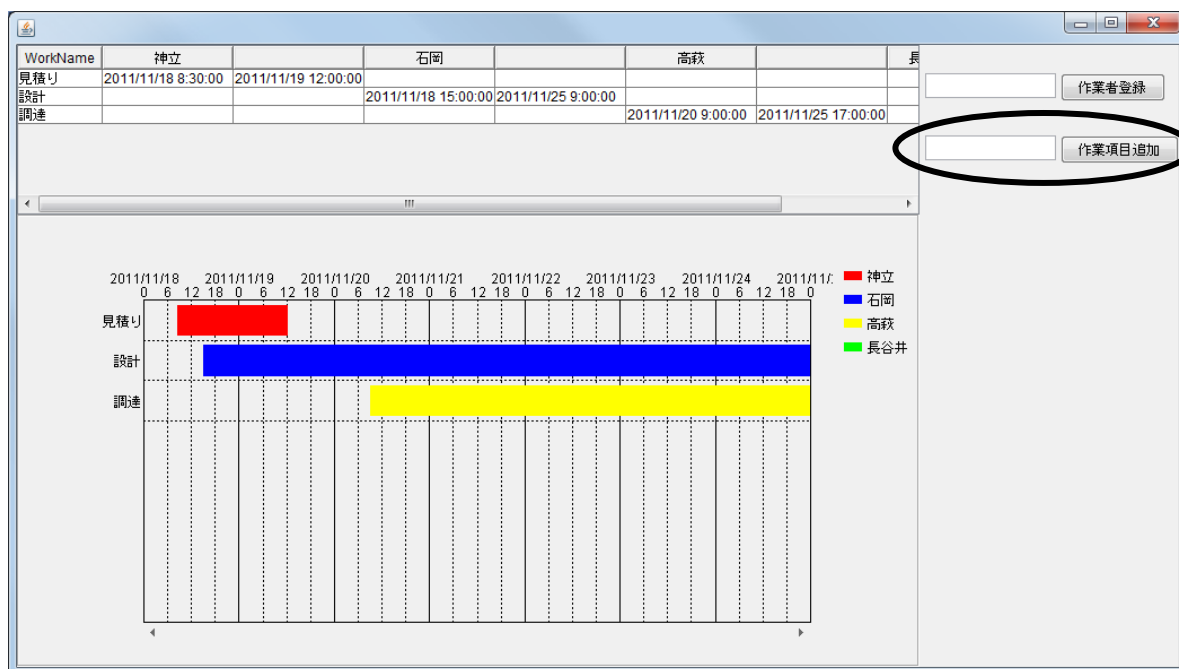
④ [ボタン] の名前を変更します。

[ボタン] コンポーネントの上で右クリック - [テキスト] をクリックします。

「<ボタン>」を消して「作業項目追加」と入力します。



⑤ ボタン名が変更されます。



### 接続確認

コンポーネント同士の接続を確認します。

行を追加する①

接続項目	接続関係
接続元コンポーネント (イベント発生コンポーネント)	■ ボタン (ID:6, Key:作業項目追加)
発生イベント	アクションイベント
接続先コンポーネント②	■ テーブル (ID:2)
起動メソッド	行を追加する()

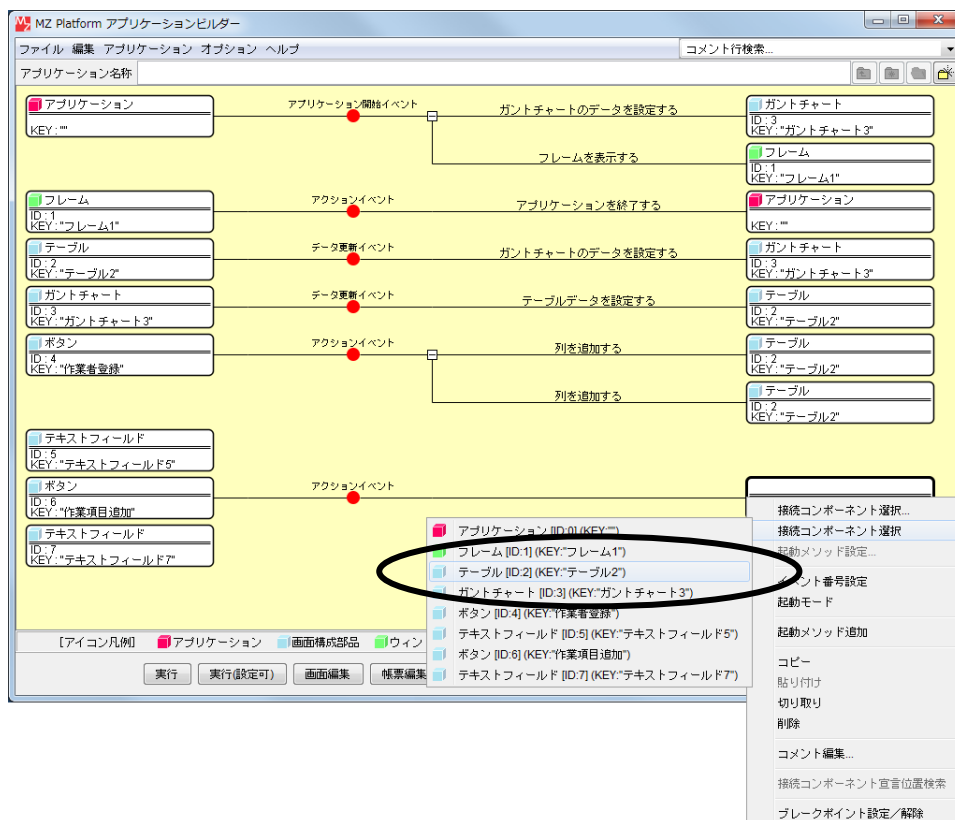
## 1 列目に WorkName を追加する②

接続先コンポーネント③	■ テーブル (ID:2)
起動メソッド	セルの値を設定する (Object, int, int)
<引数 0 >	説明: セルの値 取得方法: メソッド戻り値 コンポーネント: テキストフィールド メソッド/値: テキストを取得する
<引数 1 >	説明: 行の位置 取得方法: メソッド戻り値 コンポーネント: テーブル メソッド/値: 最終行の位置を取得する
<引数 2 >	説明: 列の位置 取得方法: 固定値 メソッド/値: 0

### 操作

#### —— 行を追加する① ——

- ① 使用するイベントを選択し、コンポーネントを接続する準備をします。  
左側の [ボタン (ID:6)] コンポーネント上で右クリック → [イベント処理追加]  
→ [アクションイベント] とクリックします。
- ② イベントの接続先コンポーネントを選びます。  
左側の [ボタン (ID:6)] コンポーネントの [アクションイベント] 上で  
右クリック → [起動メソッド追加] とクリックします。薄灰色の四角い枠が追加されます。  
右側に追加された薄灰色の四角い枠にコンポーネントを割り当てます。  
右側に追加された薄灰色の四角い枠の上で右クリック → [接続コンポーネント選択] →  
[テーブル (ID:2)] をクリックします。



③ 接続したコンポーネントの処理を選びます。

接続したコンポーネントの上で右クリック [起動メソッド設定...] をクリックします。

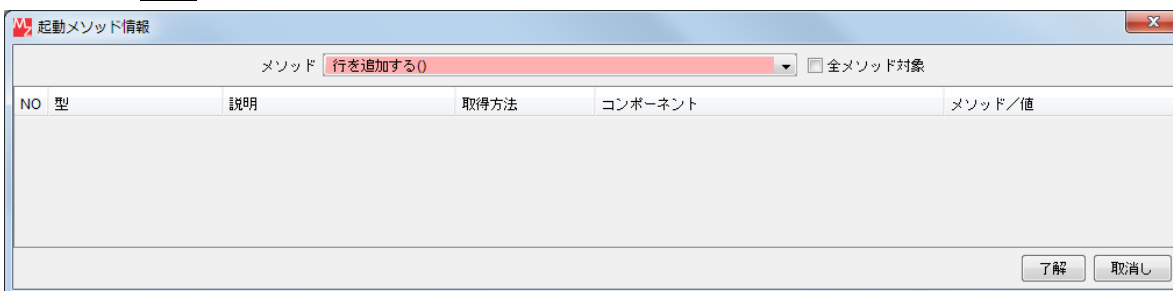
起動メソッド設定画面が表示されます。

起動メソッド (処理) を選びます。

[メソッド] の  をクリックします。

[行を追加する()] をクリックします。

設定後、 ボタンをクリックします。



—— 1 列目に WorkName を追加する ② ——

④ イベントの接続先コンポーネントを選びます。

左側の [ボタン (ID:6)] コンポーネントの [アクションイベント] 上で

右クリック [起動メソッド追加] とクリックします。薄灰色の四角い枠が追加されます。

右側に追加された薄灰色の四角い枠にコンポーネントを割り当てます。

右側に追加された薄灰色の四角い枠の上で右クリック [接続コンポーネント選択] -

[テーブル (ID:2)] をクリックします。

⑤ 接続したコンポーネントの処理を選びます。

接続したコンポーネントの上で右クリック [起動メソッド設定...] をクリックします。

起動メソッド設定画面が表示されます。



起動メソッド（処理）を選びます。

[メソッド] の  をクリックします。

[セルの値を設定する(Object, int, int)] をクリックします。

引数0を設定します。

説明：セルの値

取得方法：メソッド戻り値

コンポーネント：テキストフィールド(ID:7)

メソッド/値：テキストを取得する

引数1を設定します。

説明：行の位置

取得方法：メソッド戻り値

コンポーネント：テーブル (ID:2)


メソッド/値：最終行の位置を取得する

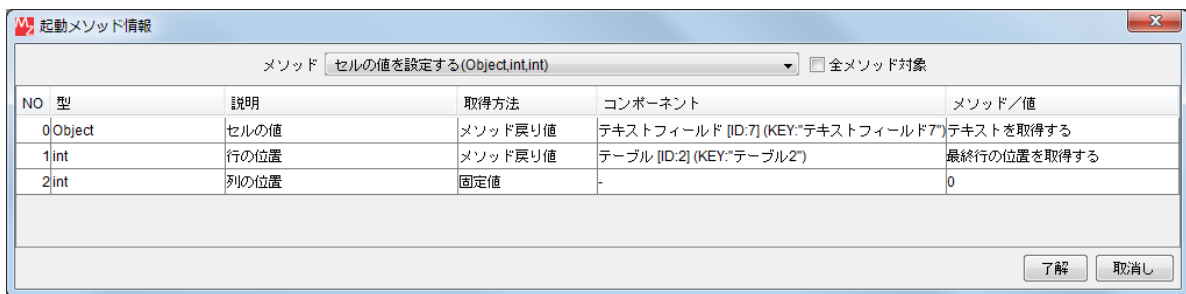
引数2を設定します。

説明：列の位置

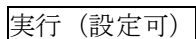
取得方法：固定値

メソッド/値：0

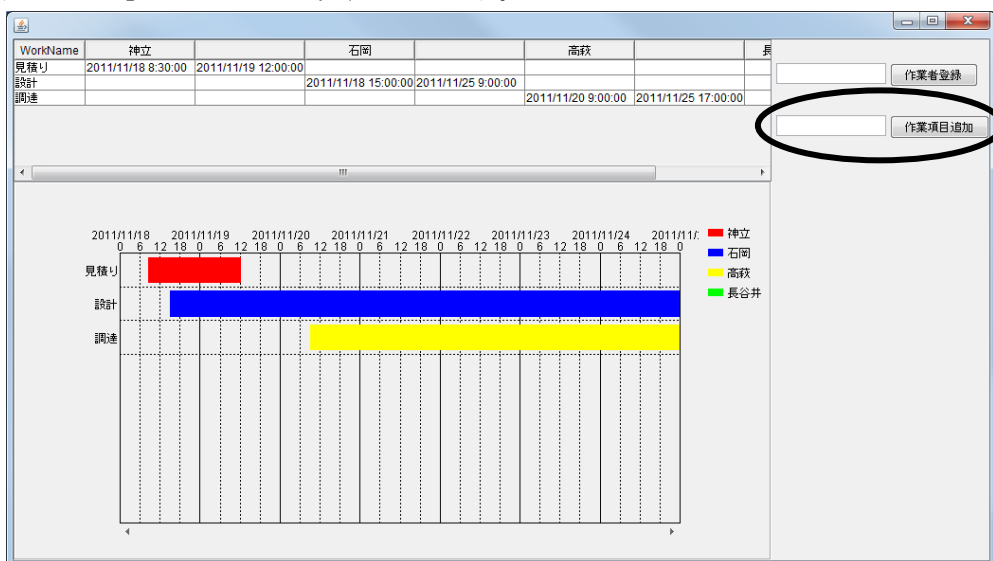
設定後、 ボタンをクリックします。



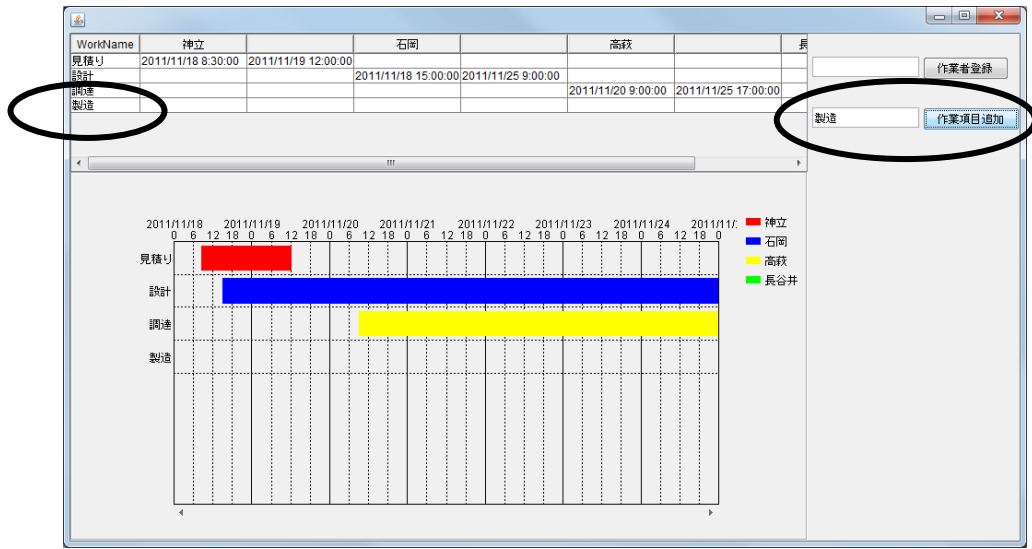
⑧ 確認します。

 で実行します。

[作業項目追加] ボタンと入力領域ができます。

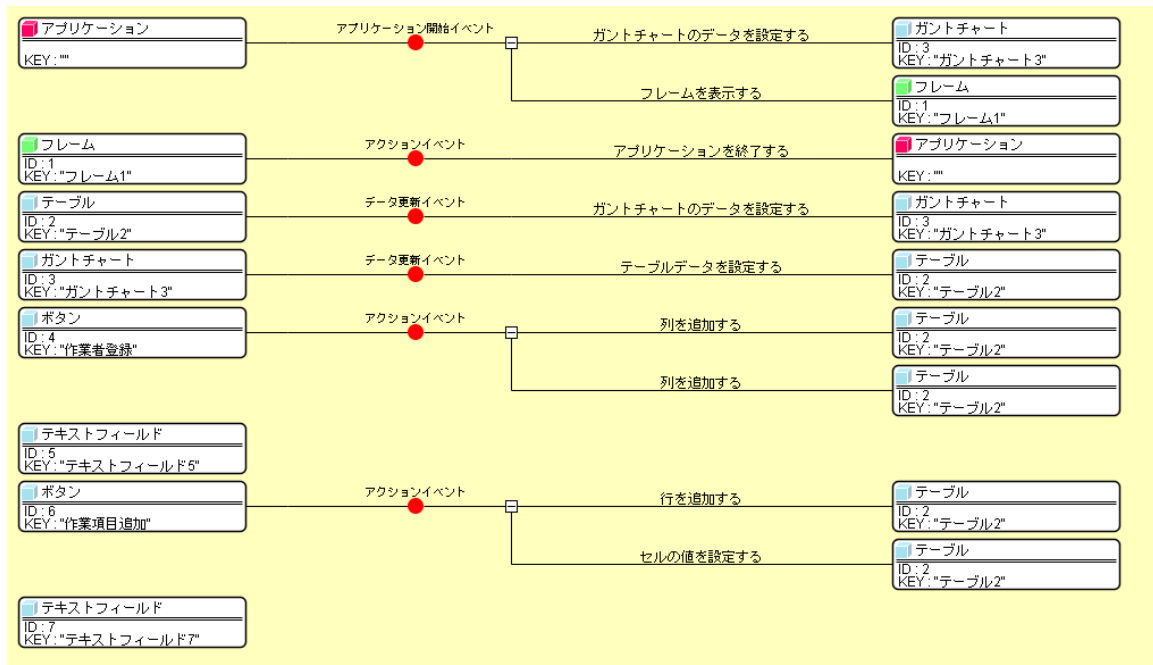


- ⑨ 項目名を入力し、[作業項目追加] ボタンをクリックします。  
 テーブルに 1 行追加されます。



## まとめ

ここまで進めるとビルダー上では以下ようになります。



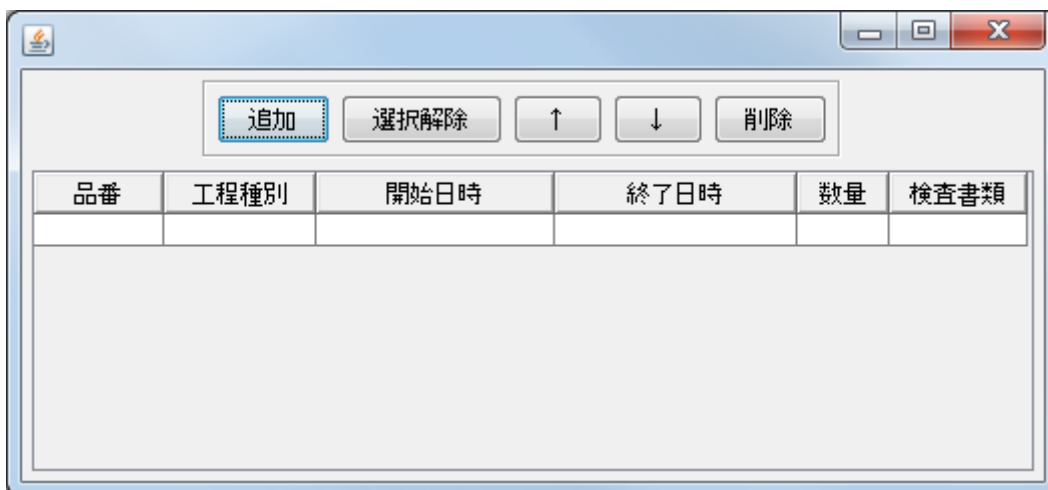
## Lesson.15 テーブル機能を拡張しよう

Lesson. 6 でご紹介したテーブル機能を拡張してみましょう。

ここではテーブルに行の [追加] ボタンや [削除] ボタンを作成します。また、セルごとに設定できる機能 (選択リストなど) もご紹介します。また実用的な画面編集方法も練習しましょう。

### Step.1 階層的な画面編集

これまでの画面編集はフレームに対してすべて同列にコンポーネントを配置していました。ここでは、[パネル] コンポーネントを使って階層的な配置を紹介します。



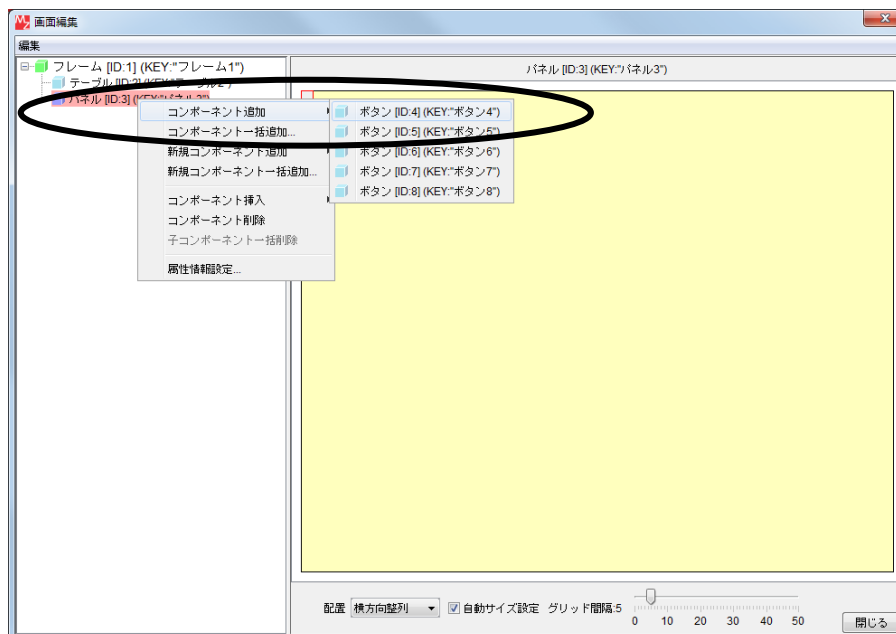
上記のように

1. 複数のボタンをひとまとめに扱いたい
2. ボタンとテーブルを分けて配置したい

という場合に、[パネル] コンポーネントが有効です。

[画面編集] の中で左の領域を使います。

この領域を使って [パネル] コンポーネントの中に階層的に [ボタン] コンポーネントを追加できます。

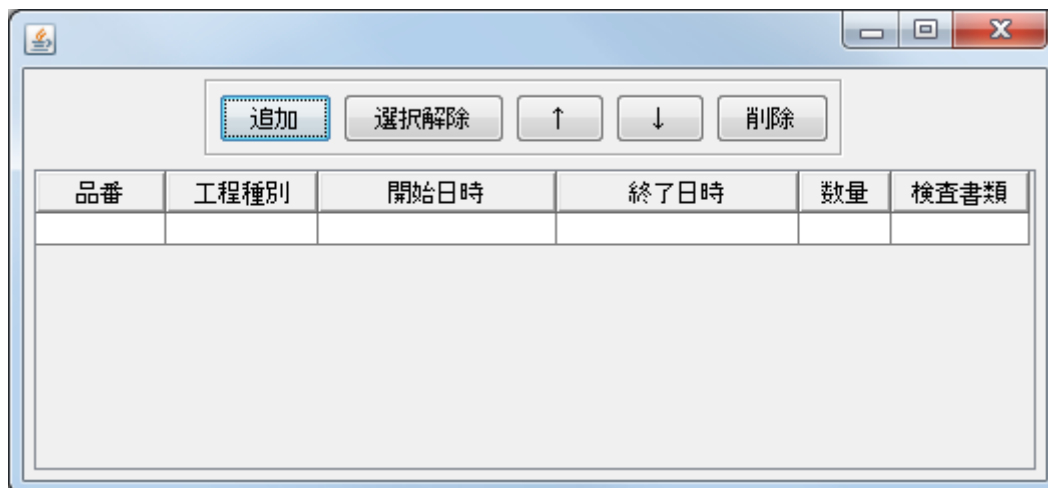


## Step.2 ボタンとテーブルで構成された画面

ボタンとテーブルで構成された画面を作成しましょう。

### 完成図

以下のような画面を作りましょう。



### 準備

ここでは以下のコンポーネントを使用します。

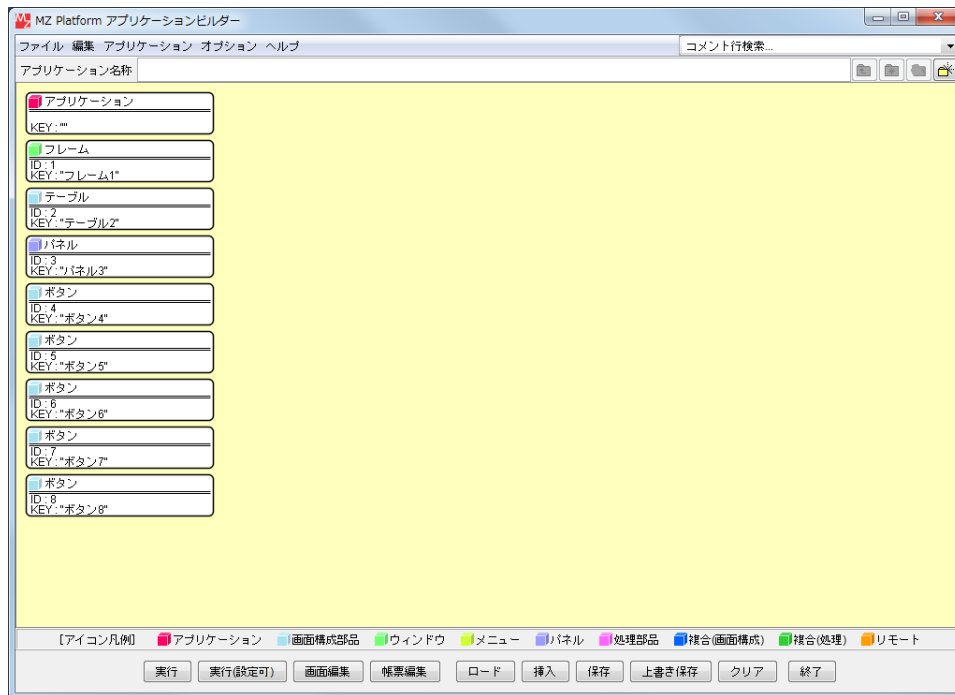
コンポーネント名	必要数	
■アプリケーション	(1)	
■フレーム	1	[画面構成部品] - [ウィンドウ] - [フレーム]
■テーブル	1	[画面構成部品] - [テーブル] - [テーブル]
■パネル	1	[画面構成部品] - [パネル] - [パネル]
■ボタン	5	[画面構成部品] - [ボタン] - [ボタン]

### 操作

- ① 必要なコンポーネントを追加します。

作業領域で右クリック - [コンポーネント追加] - [画面構成部品] - [ウィンドウ] - [フレーム]、  
作業領域で右クリック - [コンポーネント追加] - [画面構成部品] - [テーブル] - [テーブル]、  
作業領域で右クリック - [コンポーネント追加] - [画面構成部品] - [パネル] - [パネル]、  
とクリックします。

作業領域で右クリックー [コンポーネント一括追加] ー [画面構成部品] ー [ボタン] ー [ボタン] とクリック、ボタンの追加数 [5] と入力します。  
 (すべてのコンポーネントを一括追加しても構いません)



## 接続確認

コンポーネント同士の接続を確認します。

開始

項目	内容
接続元コンポーネント (イベント発生コンポーネント)	■アプリケーション
発生イベント	アプリケーション開始イベント
接続先コンポーネント	■フレーム (ID:1)
起動メソッド	フレームを表示する()

終了

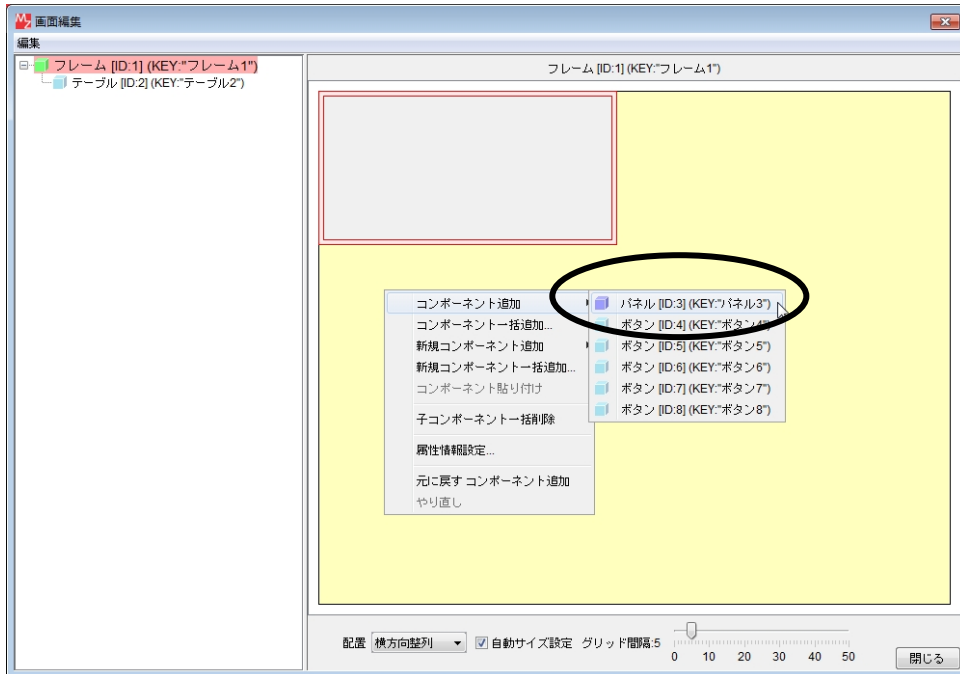
項目	内容
接続元コンポーネント (イベント発生コンポーネント)	■フレーム (ID:1)
発生イベント	アクションイベント
接続先コンポーネント	■アプリケーション
起動メソッド	アプリケーションを終了する()

## 画面編集

① 画面を作成します。

**画面編集**をクリックします。

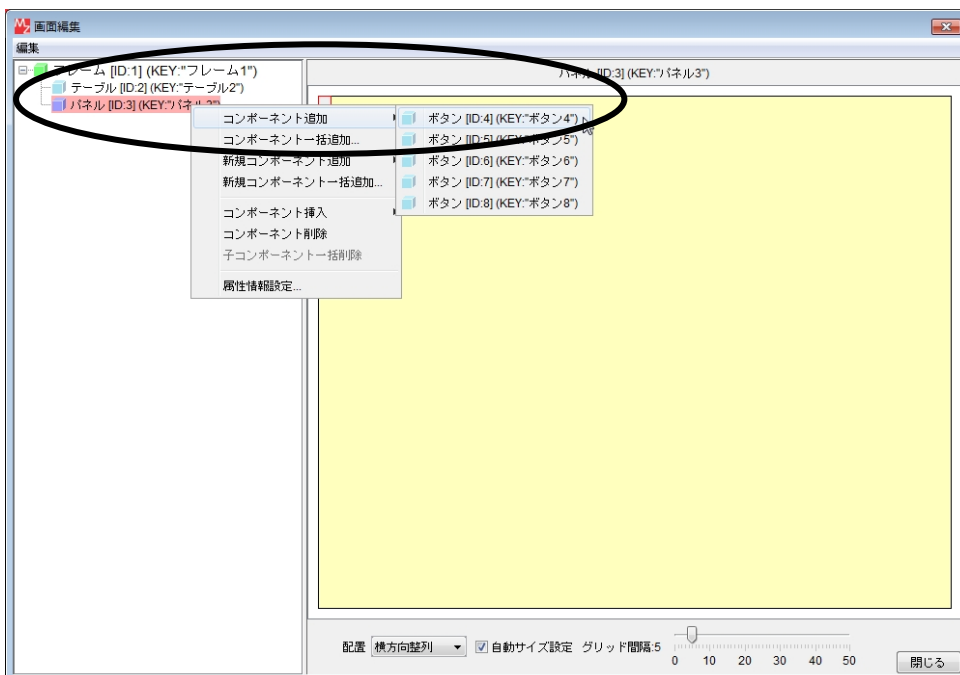
最初の階層として [テーブル] コンポーネントと [パネル] コンポーネントを追加します。



② パネルの中にボタンを追加します。

左側の領域の [パネル] の上で右クリックします。

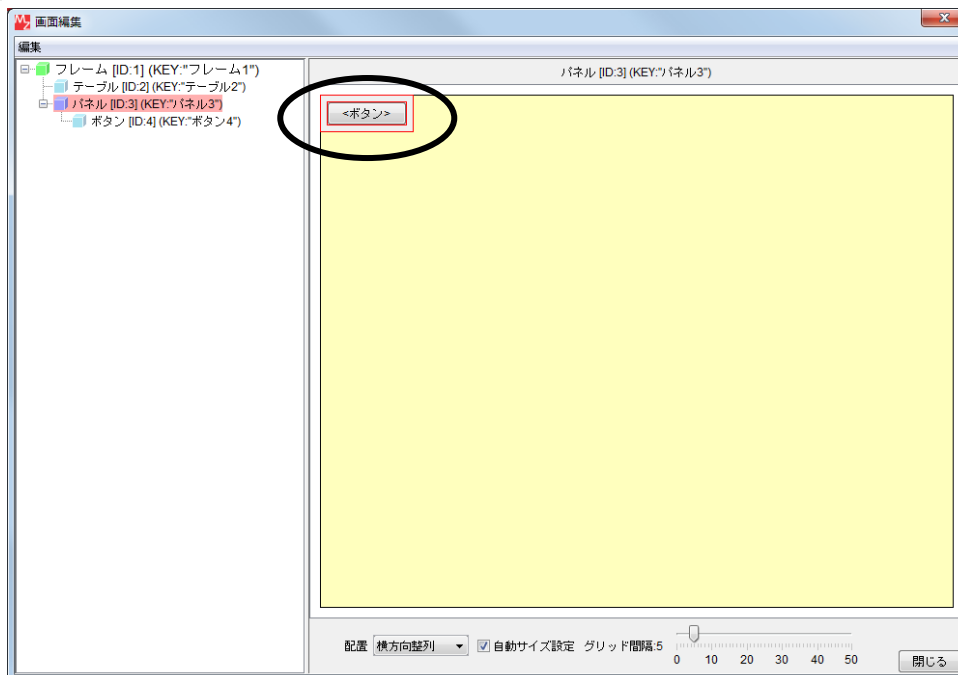
[コンポーネント追加] - [ボタン(ID:4)] とクリックします。



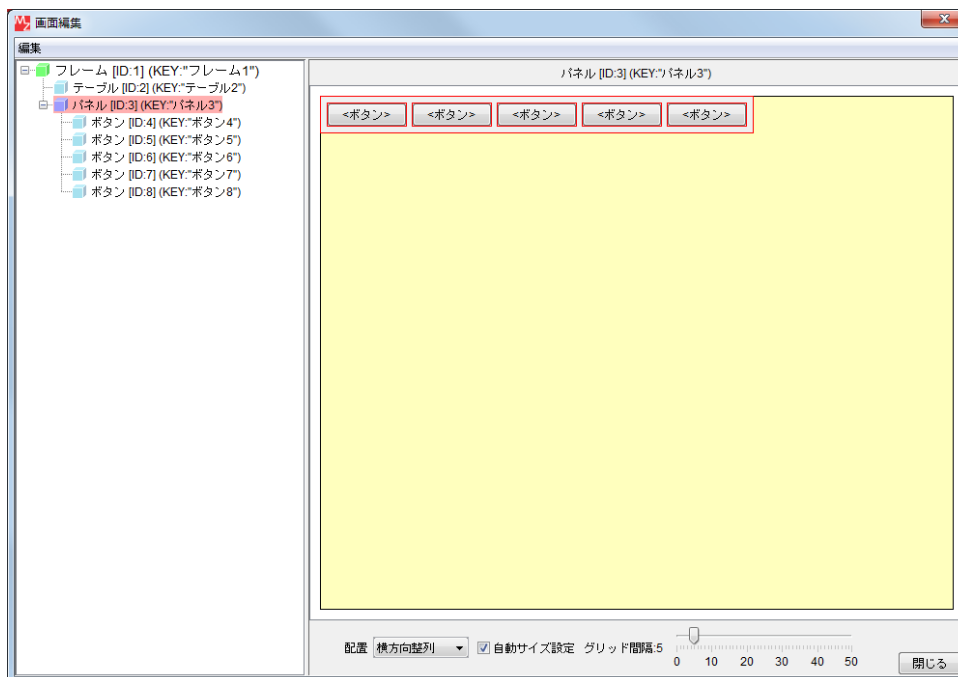
確認



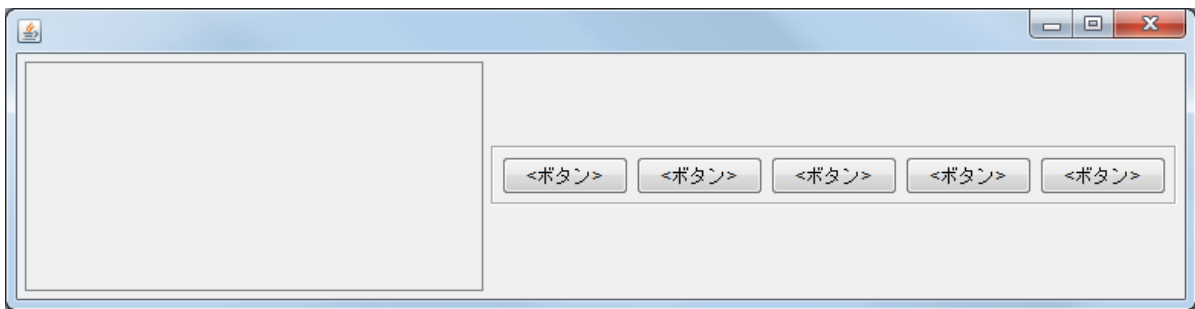
[パネル] コンポーネントに [ボタン] コンポーネントが追加されます。



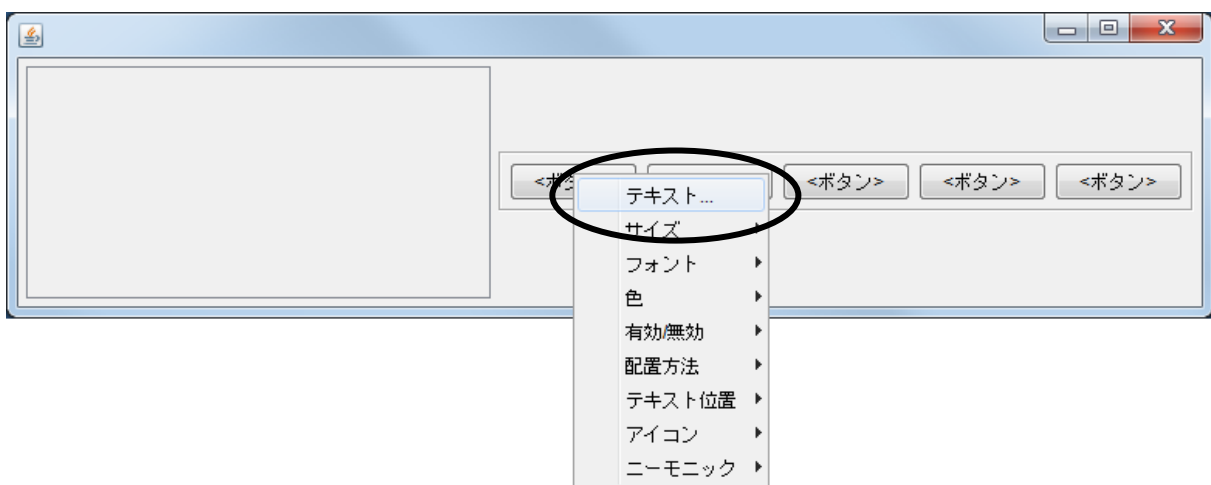
- ③ ②の操作を繰り返してボタンを全部追加します。(または一括追加を使っても構いません) コンポーネント追加後は閉じるをクリックします。



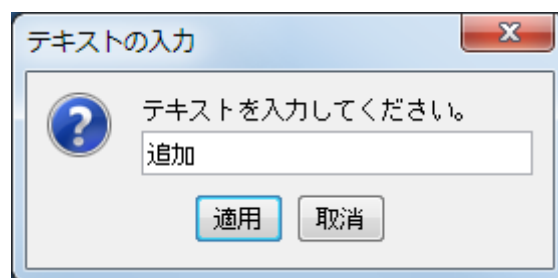
- ④ 画面編集の完成を確認します。  
実行（設定可）で実行します。



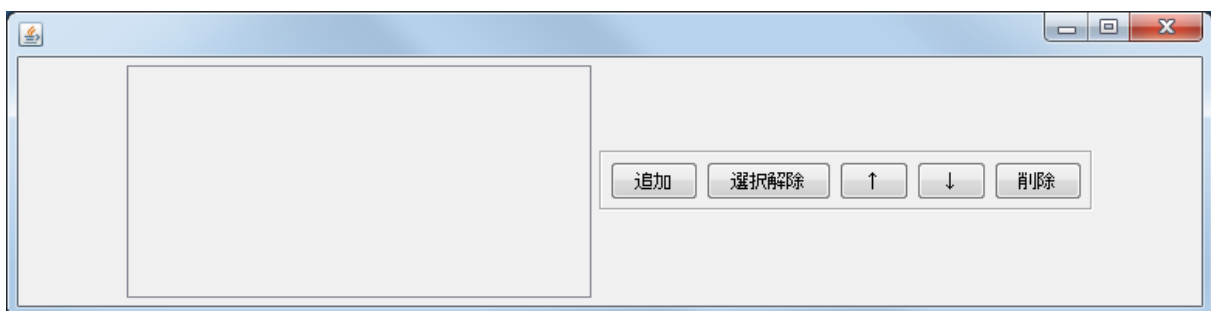
- ⑤ ボタンの名前を変更します。  
ボタンの上で右クリック - [テキスト...] とクリックします。



- ⑥ ボタンの名前を入力し適用をクリックします。



- ⑦ ⑤～⑥の手順で他のボタンも以下のように変更します。



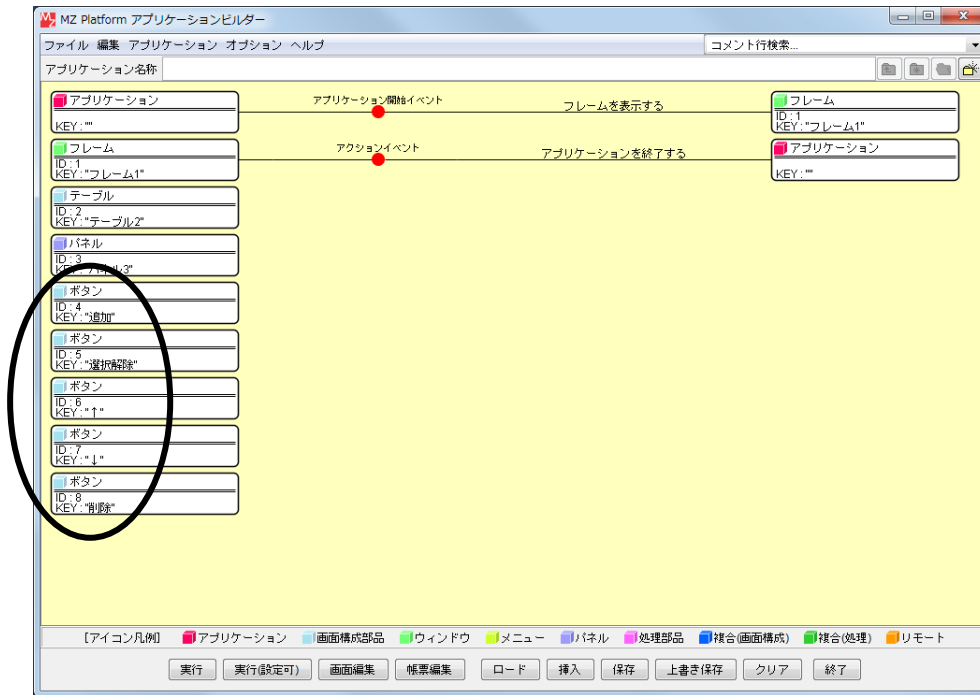


⑧ [閉じる] をクリックし、ビルダーに戻ります。

ビルダー上の画面を確認します。

[ボタン] の名前を変更したところは [コンポーネント] の Key が変更されています。

描画が更新されていない場合には、任意の [ボタン] コンポーネントをクリックすると変更されます。

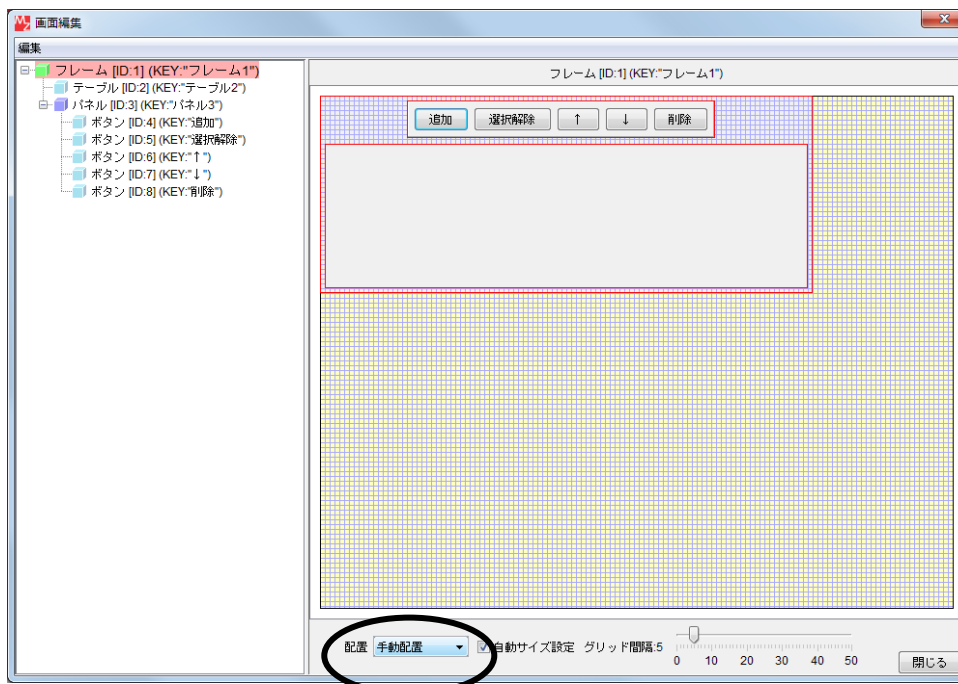


⑨ 画面構成を変更します。

**画面編集** をクリックします。

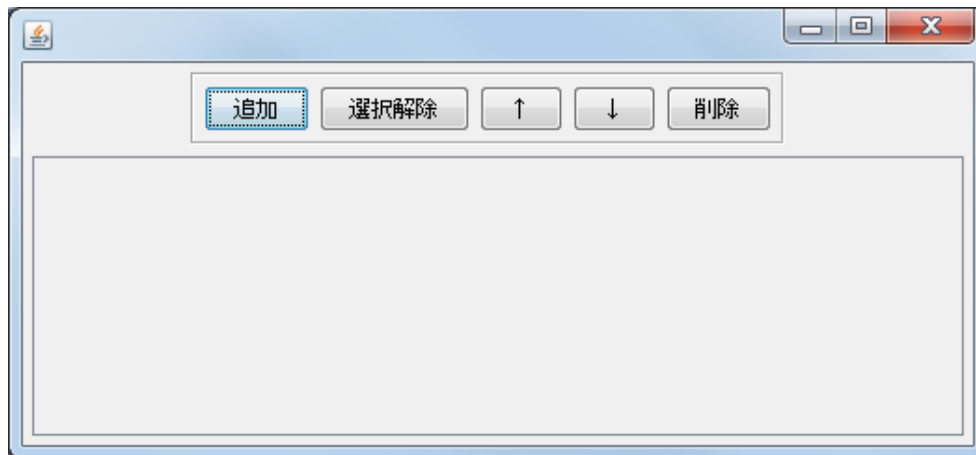
配置を [手動配置] に変更し、以下のように配置を変更します。

画面ができたなら **閉じる** をクリックし戻ります。



⑩ 画面の確認をします。

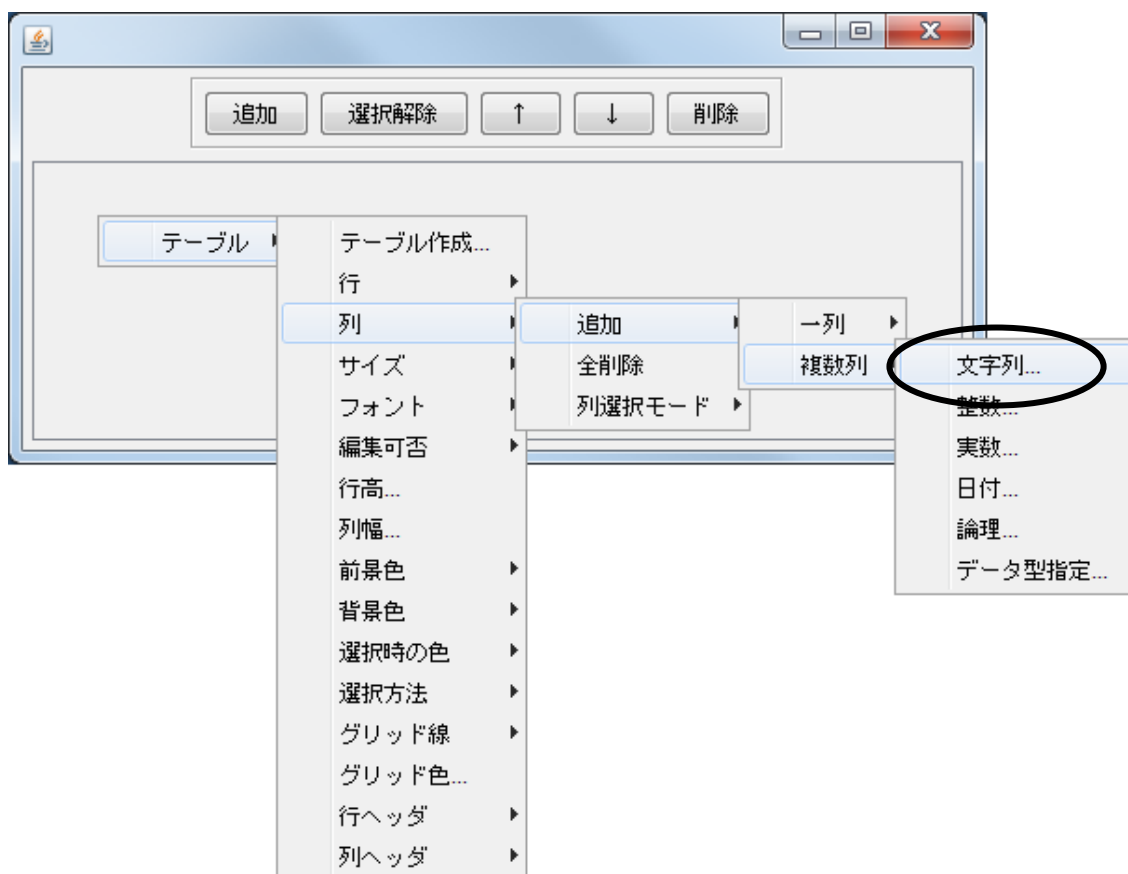
実行（設定可）で実行してみます。



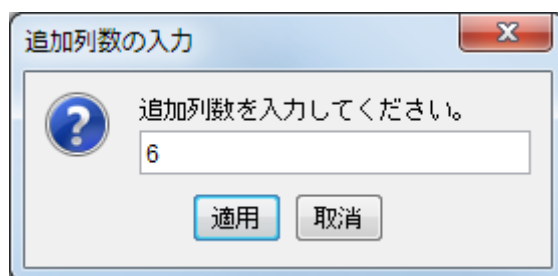
⑪ テーブルに列を追加し、列名を入力します。

実行（設定可）の画面上で右クリックします。

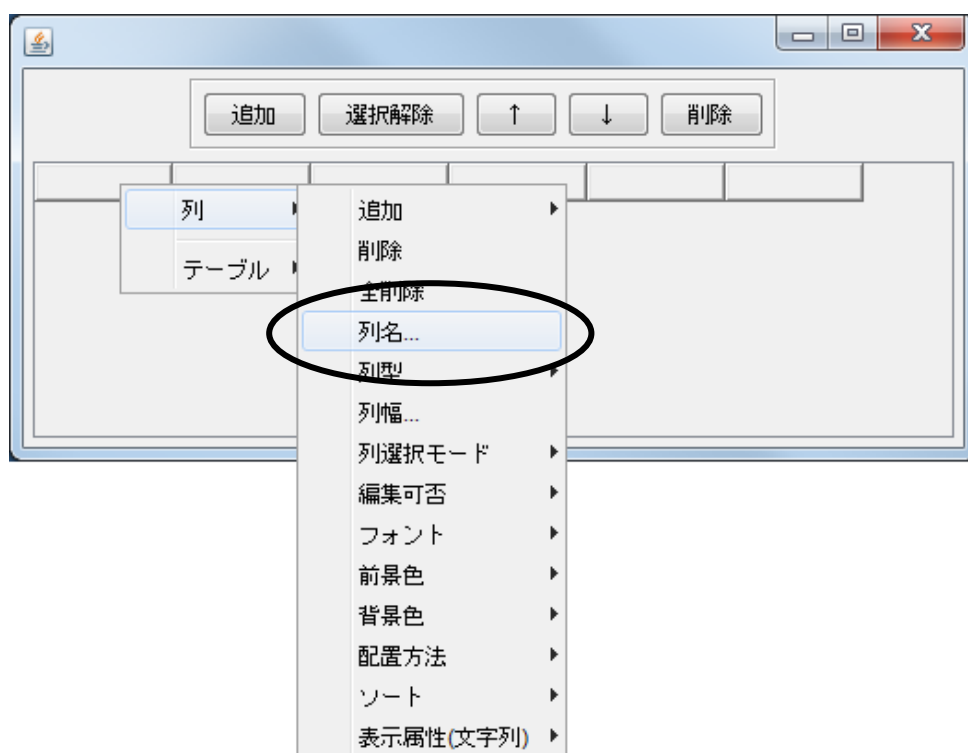
[テーブル] - [列] - [追加] - [複数列] - [文字列] とクリックします。



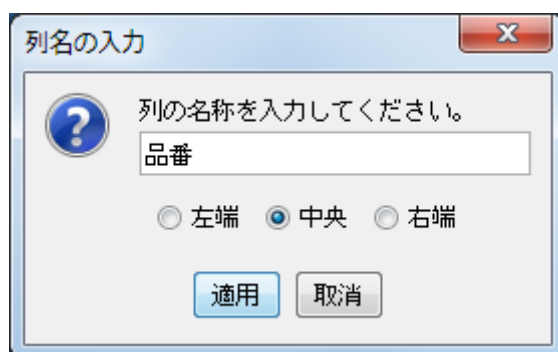
- ⑫ 「6」と入力し [適用] をクリックします。



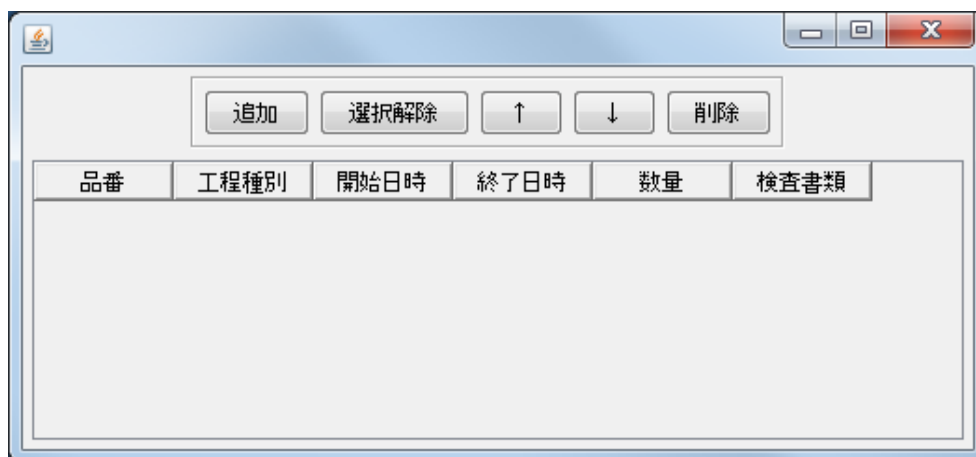
- ⑬ 列名を変更します。  
1つめの列名の上で右クリックします。  
[列] - [列名] とクリックします。



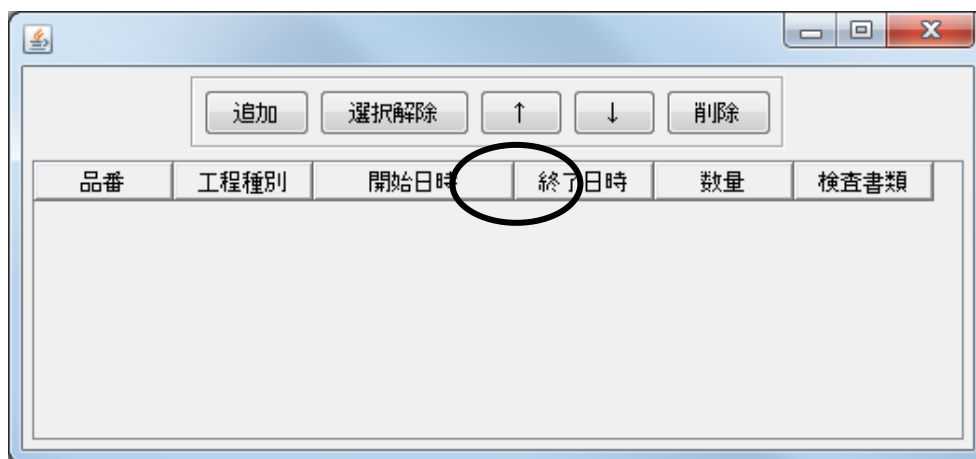
- ⑭ 列名を入力し [適用] をクリックします。



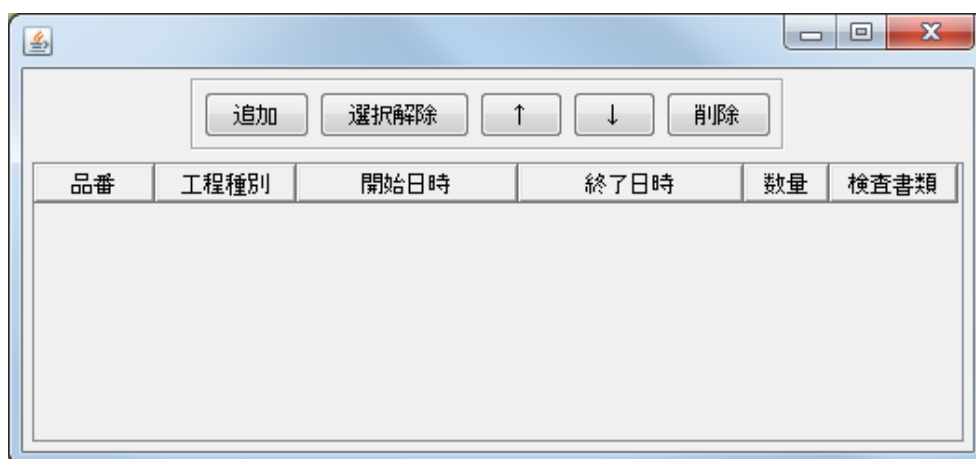
- ⑮ ⑬～⑭の操作を繰り返し他の列名も入力します。



- ⑯ 列幅を調整します。  
列と列の間にマウスポインタを合わせ、左右にドラッグします。

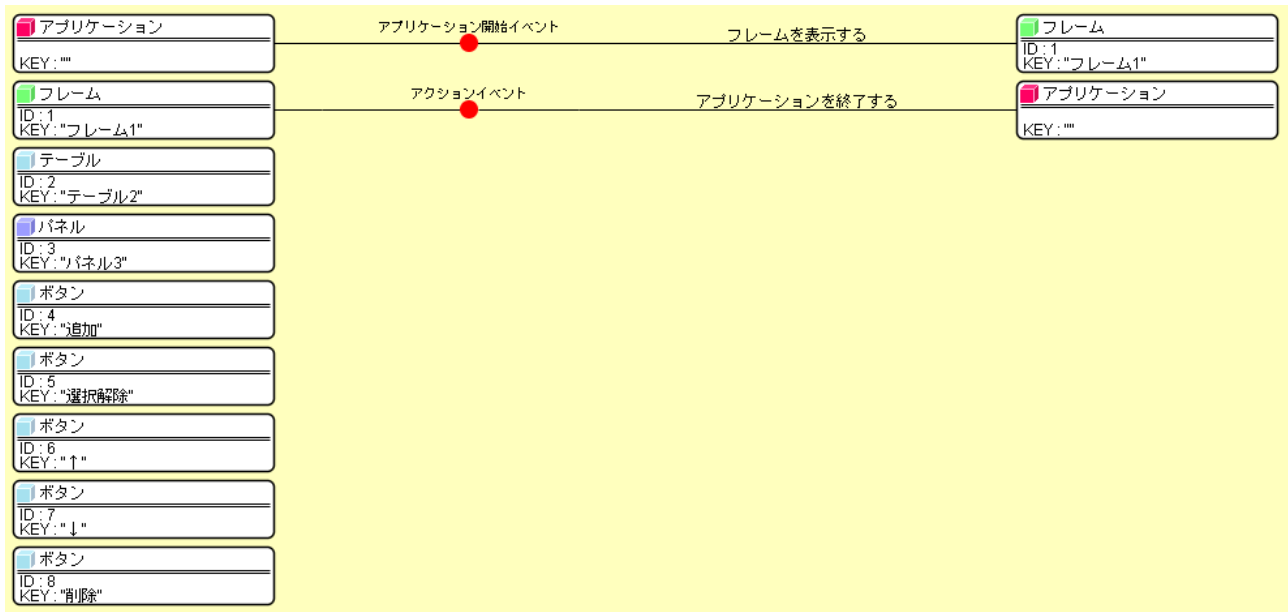


- ⑰ 以下のように調整してみましょう。



## まとめ

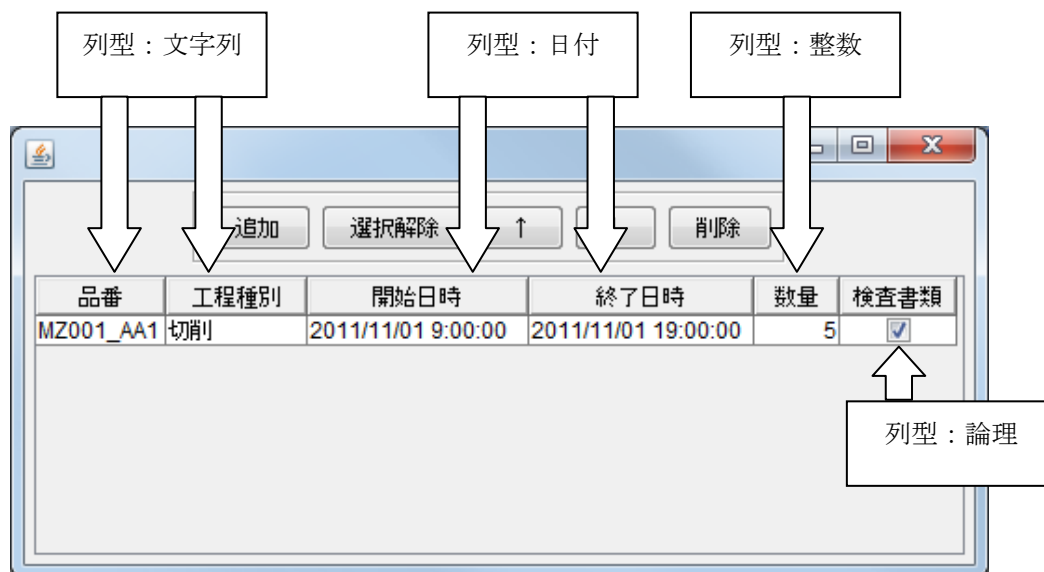
ここまで進めるとビルダー上では以下のようになります。



### Step.3 データの型

各列は入力するデータに合わせた「型」を設定します。

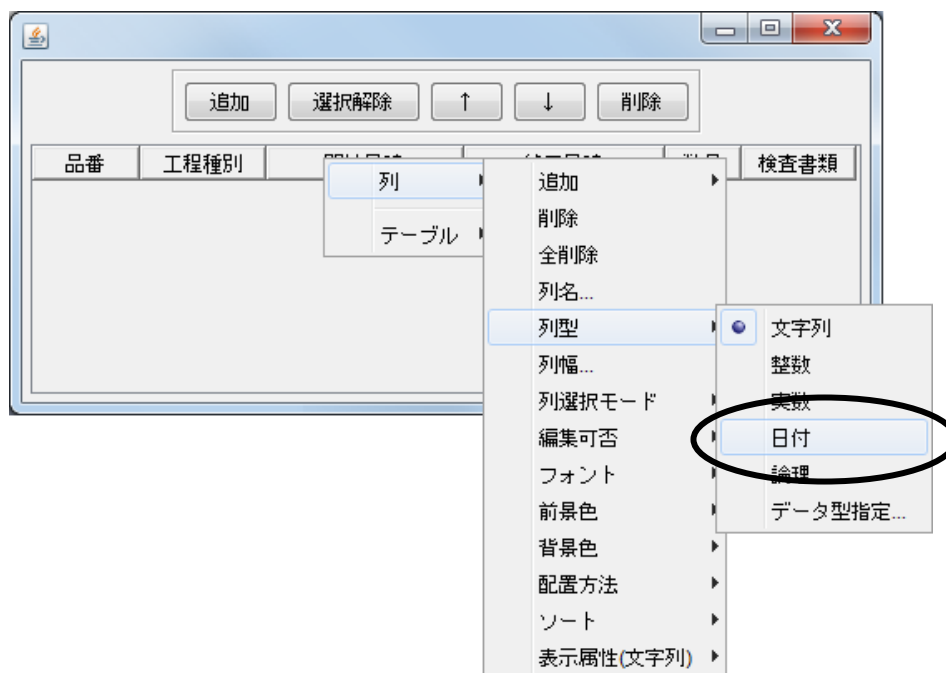
「型」によって使用できる機能が異なります。



#### 操作

データの型を変更します。

- ① 実行 (設定可) で実行します。
- ② 列名の上で右クリックします。  
「開始日時」の上で右クリック - [列] - [列型] - [日付] とクリックします。

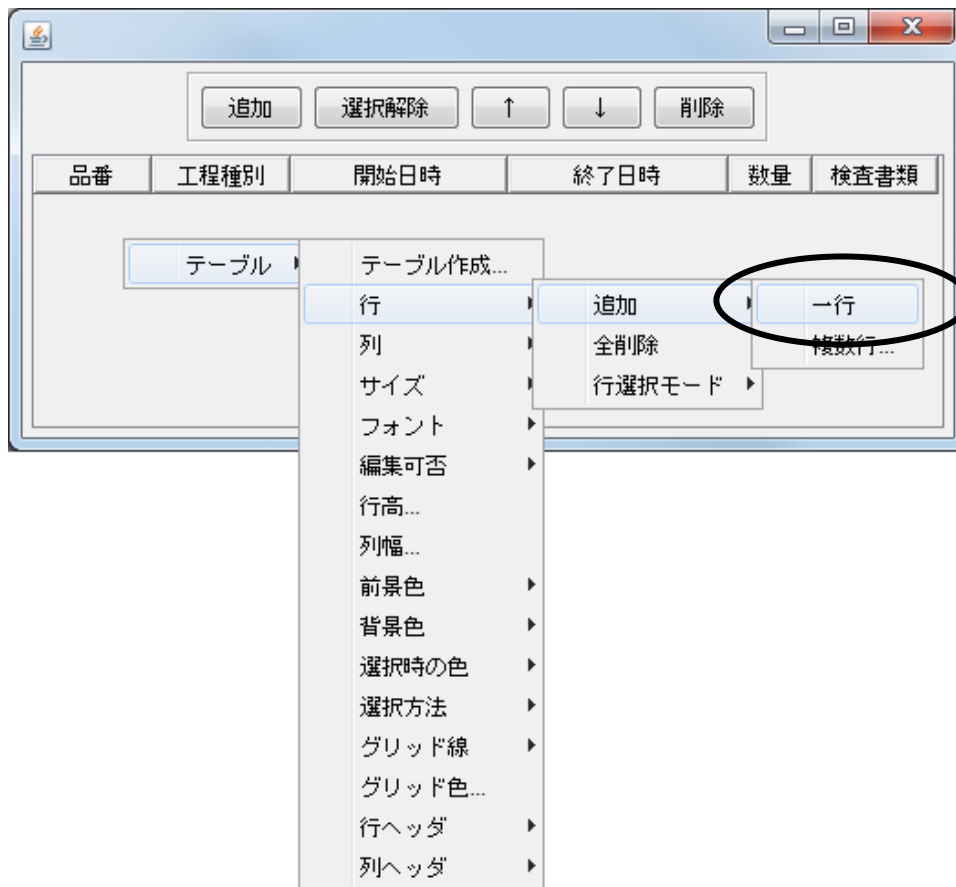


③ ②と同じ操作で

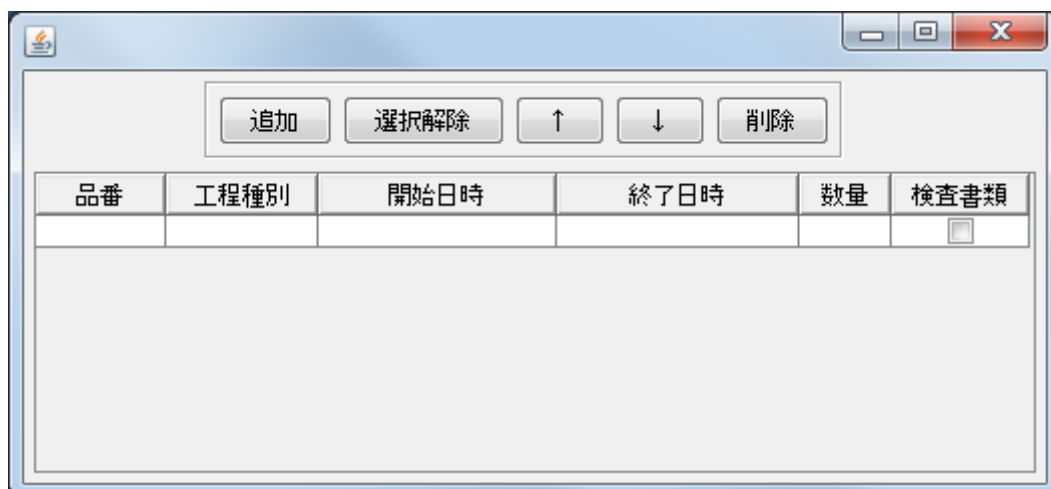
[終了日時] を [日付] 型、[数量] を [整数] 型、[検査] を [論理] 型にそれぞれ変更します。

④ 行を追加します。

テーブルの上で右クリック - [テーブル] - [行] - [追加] - [一行] とクリックします。



行が 1 行追加されます。



## Step.4 列ごとの機能

列ごとに割り当てられる機能があります。

機能名	状態	備考
選択リスト		
表示文字列		列を論理型にする

### 操作

「工程種別」に「選択リスト」、「検査」に「表示文字列」を設定します。

- ① 「工程種別」に選択リストを設定します。

実行（設定可）で実行します。

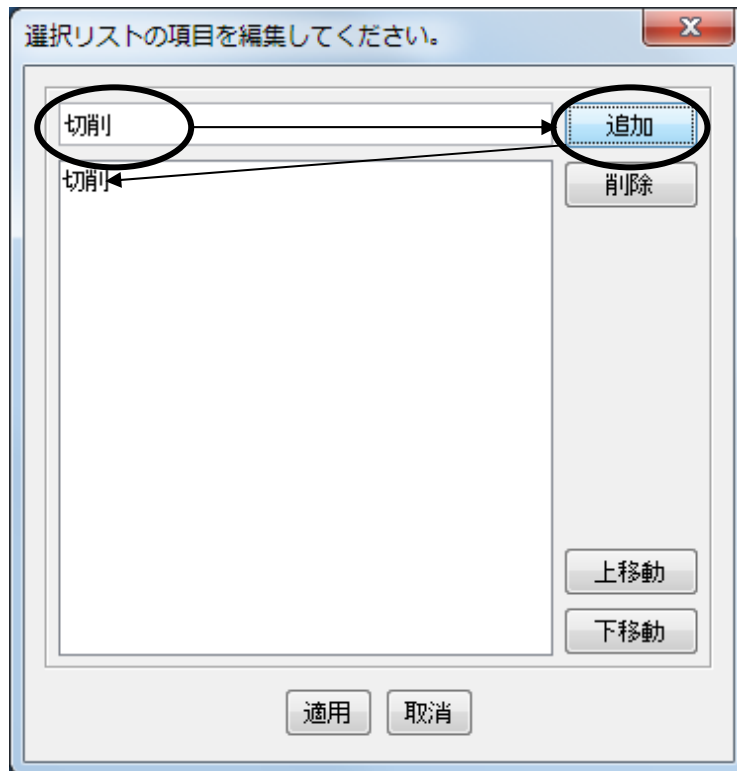
「工程種別」の列名の上で右クリックします。

[列] - [表示属性 (文字列)] - [選択リスト] - [表示する] とクリックします。

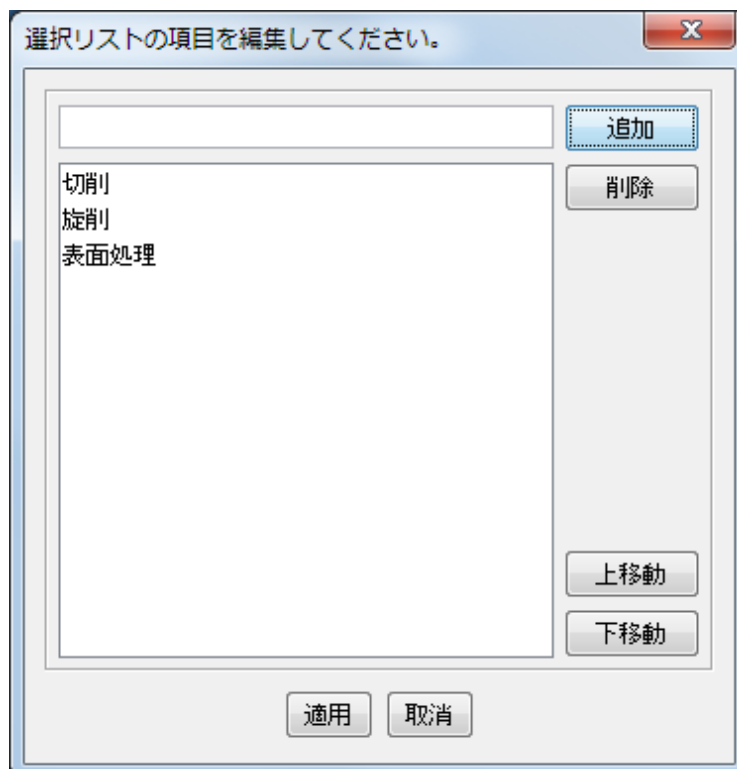




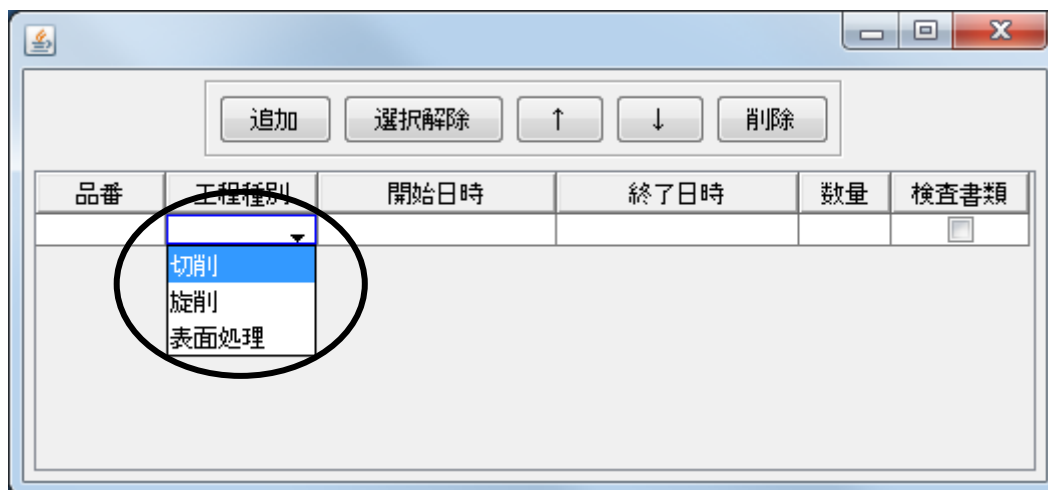
- ② 上のテキストボックスに項目データを入力し、[追加] をクリックします。



- ③ ②の処理を繰り返して以下のように項目を入力します。  
適用をクリックします。



④ セル上でクリックすると次のように完成します。



The screenshot shows a software window with a table and a control panel. The control panel at the top contains buttons for '追加' (Add), '選択解除' (Deselect), '↑' (Up), '↓' (Down), and '削除' (Delete). The table below has columns for '品番' (Part No.), '工程種別' (Process Type), '開始日時' (Start Date/Time), '終了日時' (End Date/Time), '数量' (Quantity), and '検査書類' (Inspection Document). The '工程種別' column is currently open, showing a dropdown menu with three options: '切削' (Cutting), '旋削' (Turning), and '表面処理' (Surface Treatment). The '切削' option is selected and highlighted in blue. A black circle is drawn around the dropdown menu.

品番	工程種別	開始日時	終了日時	数量	検査書類
	切削				<input type="checkbox"/>

## Step.5 選択解除

[選択解除] ボタンを設定します。選択した行を解除する設定をします。

### 1) 選択モード

テーブルコンポーネント上では、選択する方法が3種類あります。

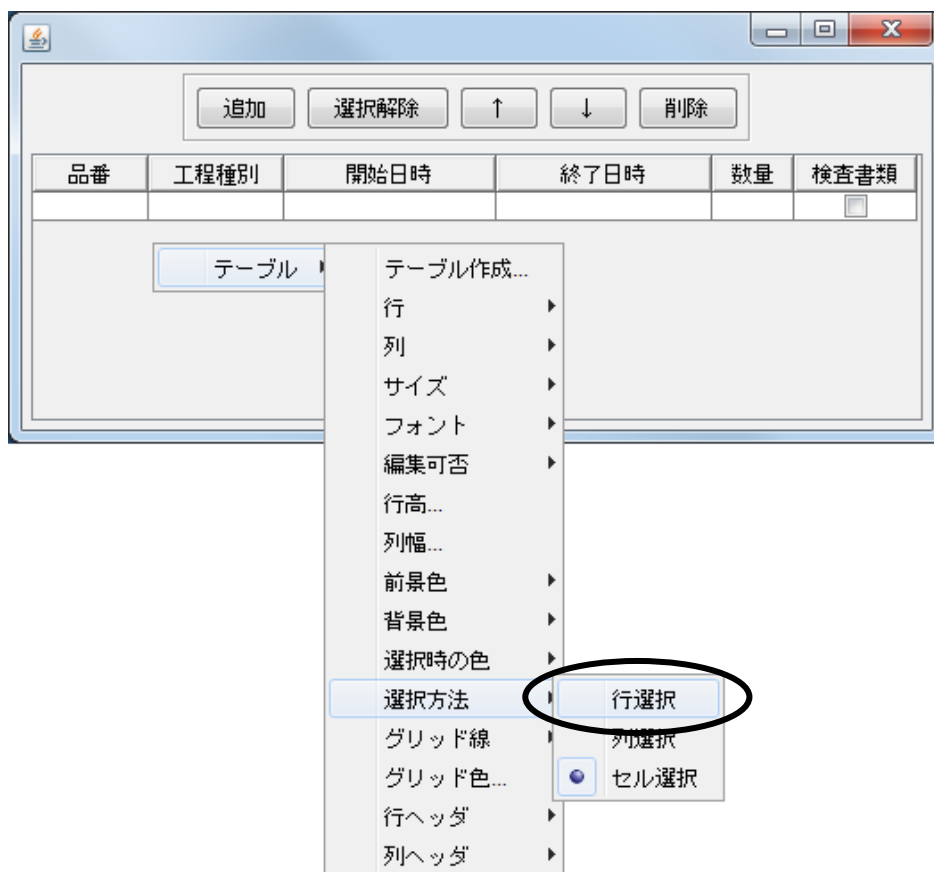
ここでは「行選択」ができるように設定しておきます。

選択方法	説明
行選択	1箇所クリックすると1行選択できます
列選択	1箇所クリックすると1列選択できます
セル選択	セル単位で選択します

### 操作

「単一行選択」の設定をしましょう。

- ① テーブルの上で右クリック - [テーブル] - [選択方法] - [行選択] をクリックします。



確認



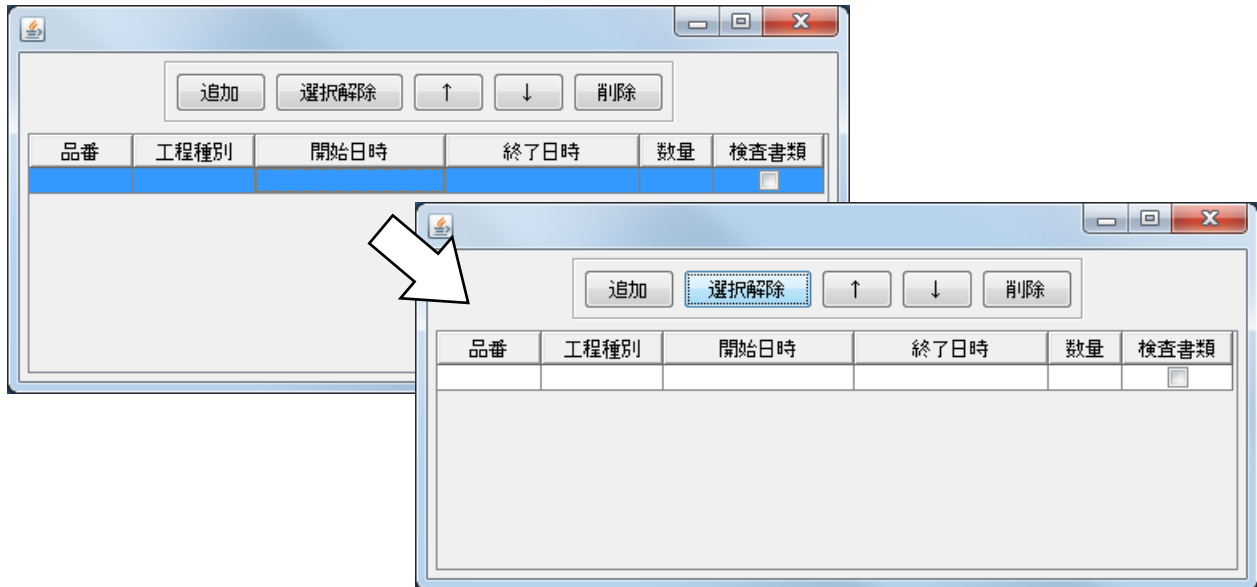
行単位で選択できるようになります。

## 2) 選択解除の設定

選択した行を解除する設定をします。

### 完成図

以下のように完成しましょう。



### 考え方

1. 任意の行をクリックし行選択状態にする
2. [選択解除] ボタンをクリックすると選択が解除される

### 接続確認


コンポーネント同士の接続を確認します。

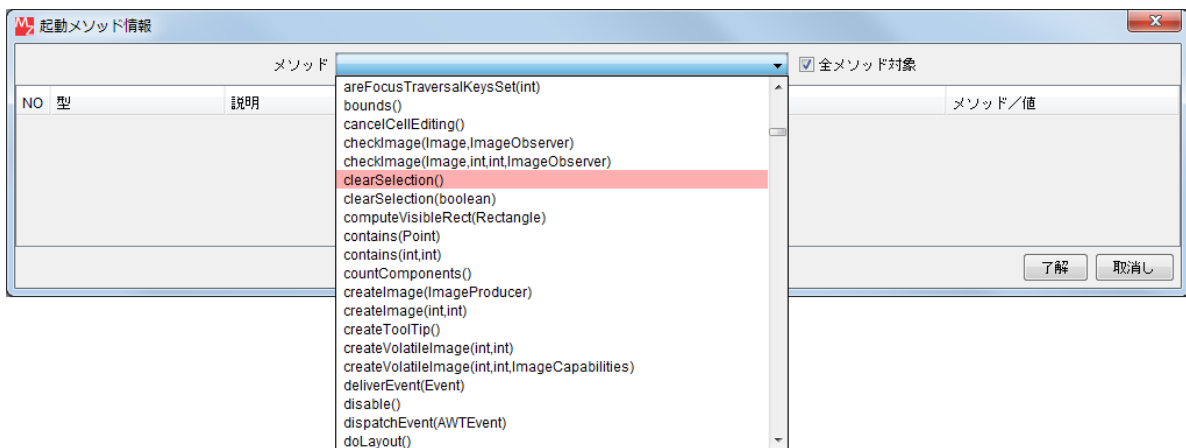
[選択解除] ボタンをクリックしたら行の選択が解除される

接続項目	接続関係
接続元コンポーネント (イベント発生コンポーネント)	■ ボタン (ID:5, Key:選択解除)
発生イベント	アクションイベント
接続先コンポーネント	■ テーブル (ID:2)
起動メソッド	clearSelection()

## 操作

[選択解除] ボタンをクリックしたら選択解除できるように設定しましょう。

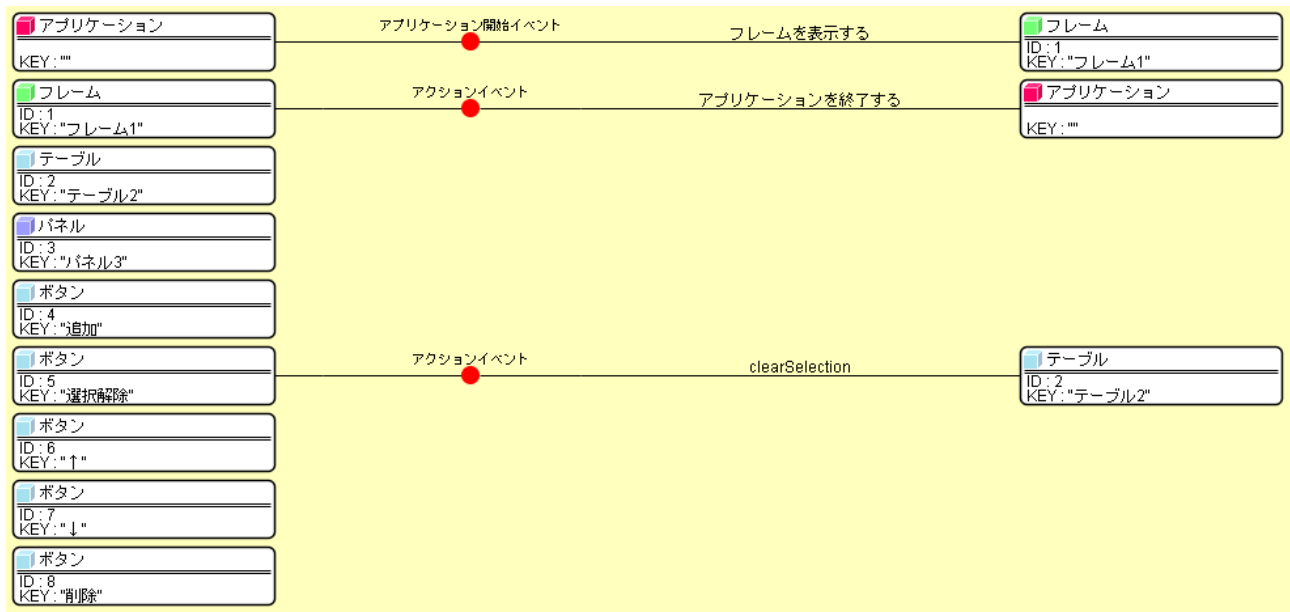
- ① 使用するイベントを選択し、コンポーネントを接続する準備をします。  
左側の [(選択解除) ボタン(ID:5)] コンポーネント上で  
右クリック - [イベント処理追加] - [アクションイベント] とクリックします。  
[アクション] イベントが発生します。
- ② イベントの接続先コンポーネントを選びます。  
左側の [(選択解除) ボタン(ID:5)] コンポーネントの [アクションイベント] 上で  
右クリック - [起動メソッド追加] とクリックします。薄灰色の四角い枠が追加されます。  
右側に追加された薄灰色の四角い枠にコンポーネントを割り当てます。  
右側に追加された薄灰色の四角い枠の上で右クリック - [接続コンポーネント選択] -  
[テーブル(ID:2)] をクリックします。
- ③ 接続したコンポーネントの処理を選びます。  
接続したコンポーネントの上で右クリック - [起動メソッド設定...] をクリックします。  
起動メソッド設定画面が表示されます。  
起動メソッド (処理) を選びます。  
日本語化されていないメソッドなので [全メソッド対象] をチェックします。  
[メソッド] の  をクリックします。  
[clearSelection()] をクリックします。  
設定後、**了解** ボタンをクリックします。



- ④ 設定できたことを確認します。  
**実行 (設定可)** で実行します。  
セルをクリックします。青色に反転したら [選択解除] ボタンをクリックします。

## まとめ

ここまで進めるとビルダー上では以下ようになります。

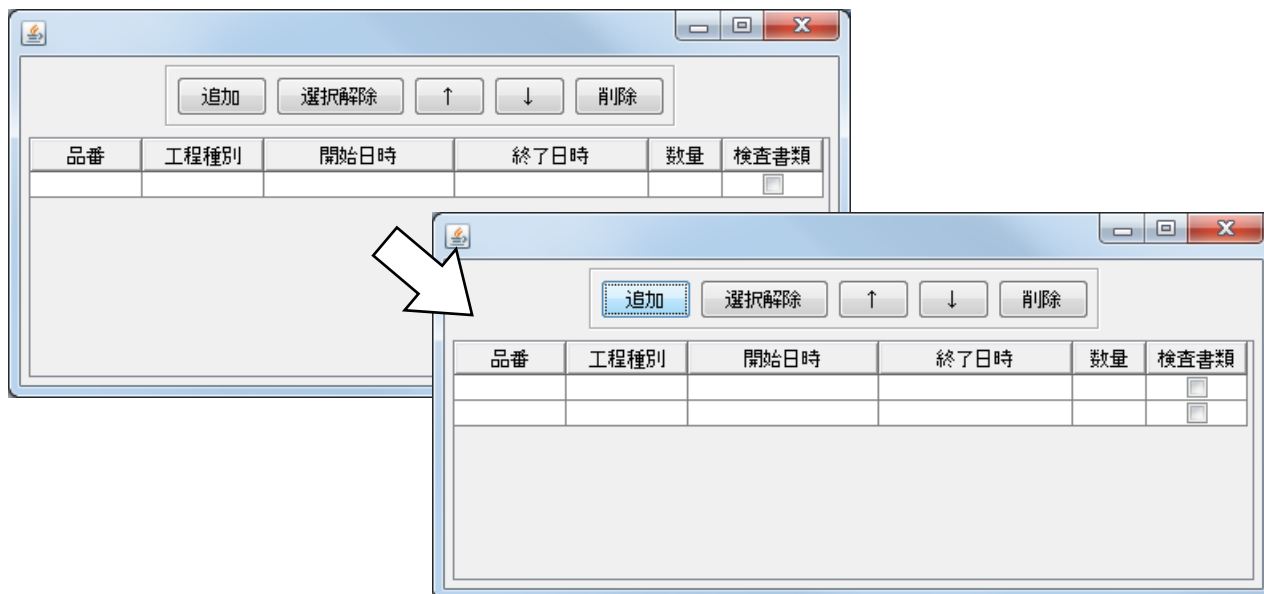


## Step.6 行を追加する

[追加] ボタンを設定します。[追加] ボタンをクリックしたら1行追加するようにします。

### 完成図

以下のように完成しましょう。



### 考え方

1. [追加] ボタンをクリックする
2. 表の最下行に1行追加される

### 接続確認

コンポーネント同士の接続を確認します。

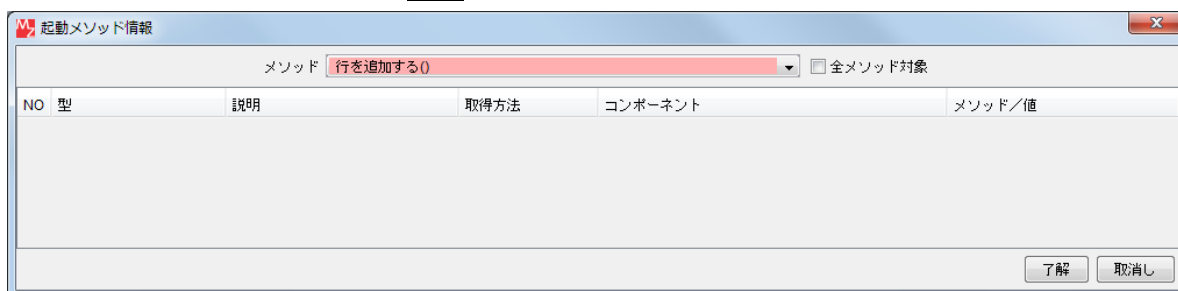
[追加] ボタンをクリックしたら表の最下行（最後尾）に1行追加される

接続項目	接続関係
接続元コンポーネント (イベント発生コンポーネント)	■ ボタン (ID:4, Key:追加)
発生イベント	アクションイベント
接続先コンポーネント	■ テーブル (ID:2)
起動メソッド	行を追加する()

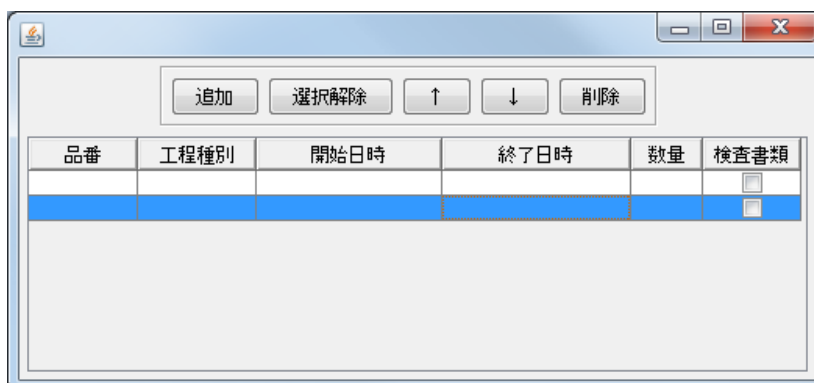
## 操作

[追加] ボタンをクリックしたら追加できるように設定しましょう。

- ① 使用するイベントを選択し、コンポーネントを接続する準備をします。  
左側の [(追加) ボタン(ID:4)] コンポーネント上で  
右クリッカー [イベント処理追加] - [アクションイベント] とクリックします。
- ② イベントの接続先コンポーネントを選びます。  
左側の [(追加) ボタン(ID:4)] コンポーネントの [アクションイベント] 上で  
右クリッカー [起動メソッド追加] とクリックします。薄灰色の四角い枠が追加されます。  
右側に追加された薄灰色の四角い枠にコンポーネントを割り当てます。  
右側に追加された薄灰色の四角い枠の上で右クリッカー [接続コンポーネント選択] -  
[テーブル(ID:2)] をクリックします。
- ③ 接続したコンポーネントの処理を選びます。  
接続したコンポーネントの上で右クリッカー [起動メソッド設定...] をクリックします。  
起動メソッド設定画面が表示されます。  
起動メソッド (処理) を選びます。  
[メソッド] の  をクリックします。  
[行を追加する()] をクリックし  をクリックします。



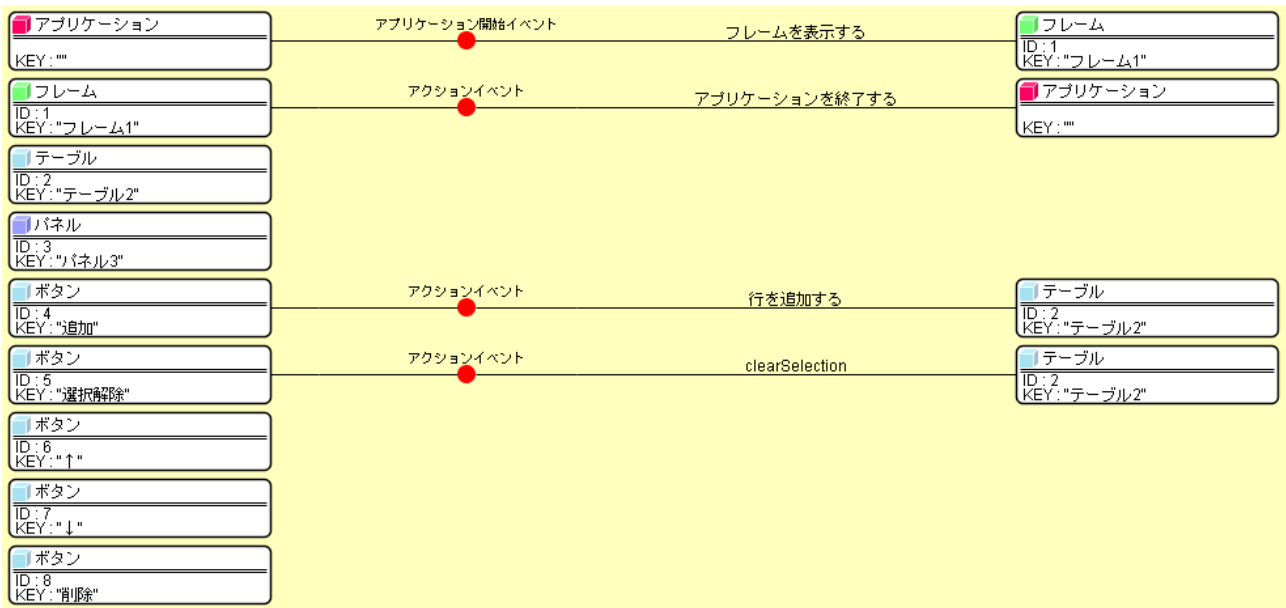
- ④ 設定できたことを確認します。  
 で実行します。  
任意のセルをクリックします。  
[追加] ボタンをクリックします。1行追加されることを確認します。





## まとめ

ここまで進めるとビルダー上では以下ようになります。

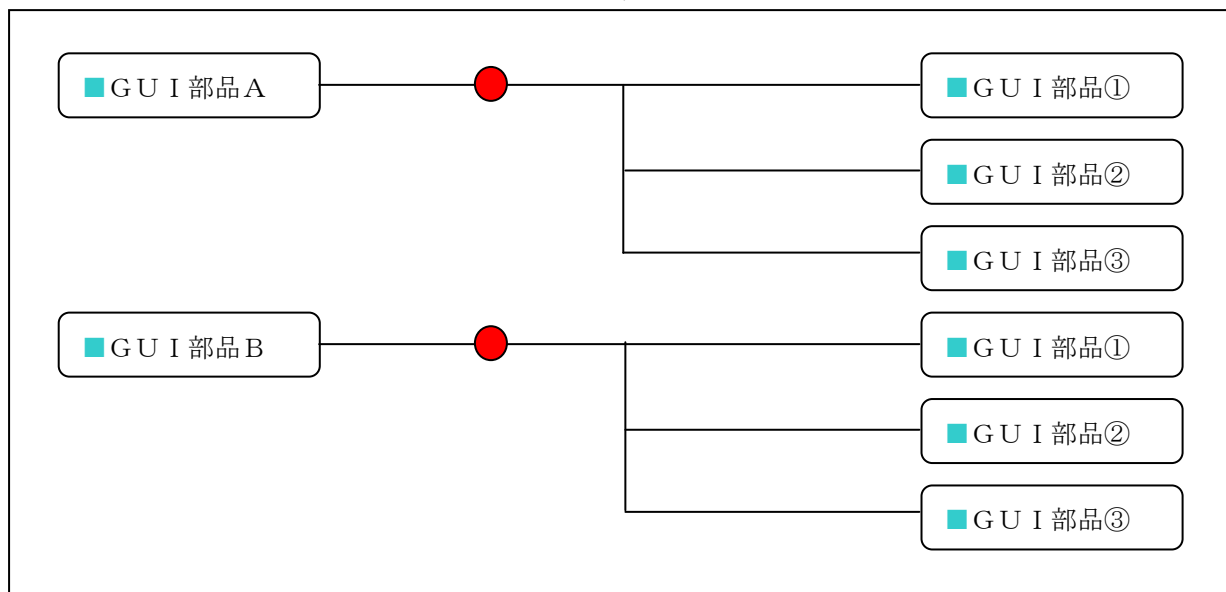


## Step.7 サブルーチン

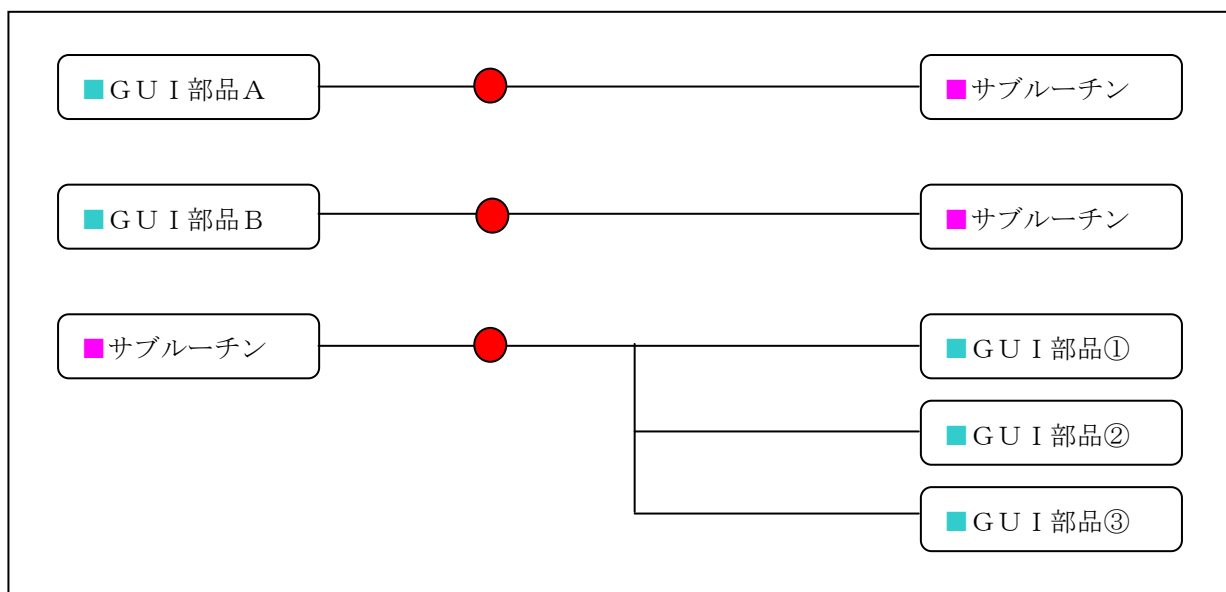
1つのイベント処理で複数のメソッドを起動している場合、それらのメソッドを「サブルーチン」としてまとめておくと、他のイベント処理で再利用するときなどに便利です。

### 例

サブルーチン化していない場合：GUI部品AとGUI部品BでGUI部品①～③の処理をしている  
これをそれぞれに記述しているためわかりづらい



サブルーチン化している場合：GUI部品①～③の処理をまとめてサブルーチンとすると、  
同じ処理の繰り返しをスッキリ記述できる



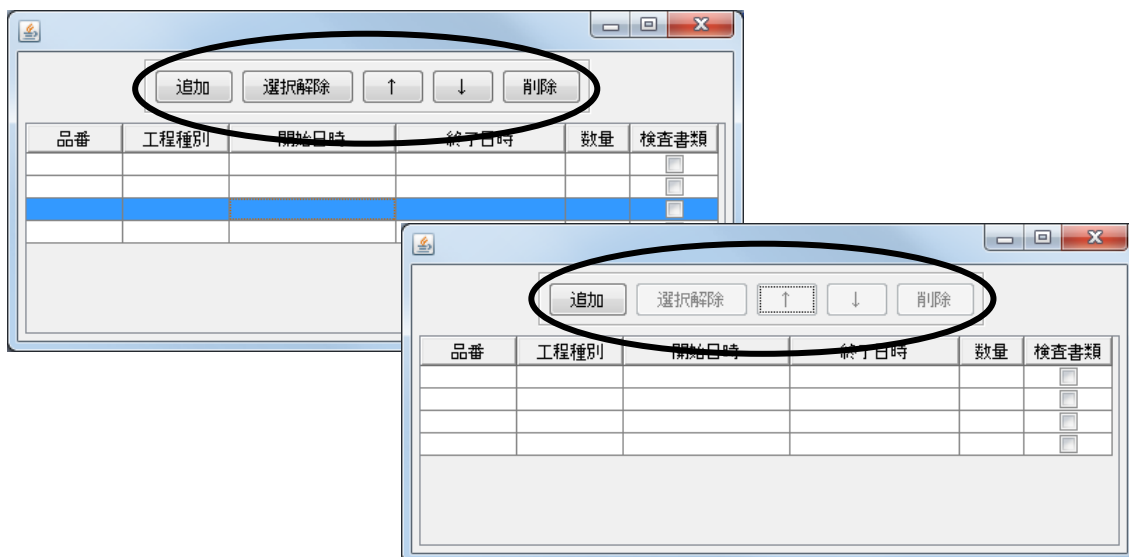
## Step.8 ボタンの有効化・無効化

テーブル内の行が選択されているときだけ [選択解除] [↑] [↓] [削除] のそれぞれのボタンが有効になるように設定しましょう。

処理が繰り返しになるので、サブルーチン化してスッキリ記述しましょう。

### 完成図

以下のように完成しましょう。



### 考え方

1. いずれかのテーブルの行が選択されたらボタンを有効にする
2. [選択解除] ボタンをクリックしたらボタンを無効にする

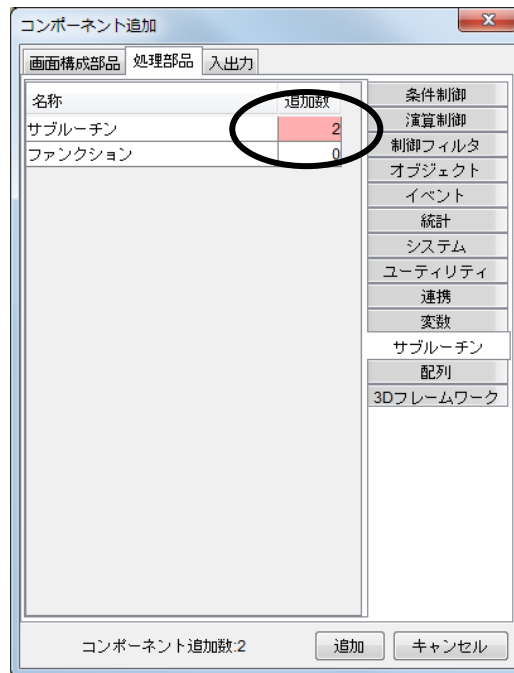
### 準備

ここでは以下のコンポーネントを使用します。

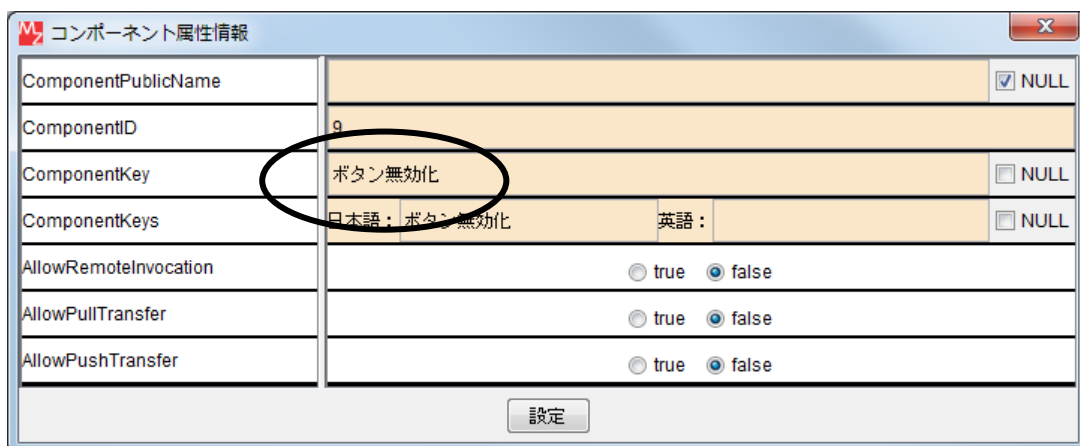
コンポーネント名	必要数	
■サブルーチン	2	[処理部品] - [サブルーチン] - [サブルーチン]

## 操作

- ① 必要なコンポーネントを追加します。  
作業領域で右クリック－[コンポーネント一括追加] をクリックします。  
[処理部品]－[サブルーチン]－[サブルーチン] コンポーネントを2つ追加します。



- ② 追加した [サブルーチン] コンポーネントに名前を付けます。  
1 つめの [サブルーチン] コンポーネントの上で右クリック－[属性情報設定] をクリックします。  
「ComponentKey」に「ボタン無効化」と入力します。



- ③ 2 つめの [サブルーチン] コンポーネントの上で右クリック－[属性情報設定] をクリックします。  
「ComponentKey」に「ボタン有効化」と入力します。

## 接続確認

コンポーネント同士の接続を確認します。

ボタンを無効化する

接続項目	接続関係
接続元コンポーネント (イベント発生コンポーネント)	■ サブルーチン (ID:9, Key:ボタン無効化)
発生イベント	アクションイベント
接続先コンポーネント①	■ ボタン (ID:5, Key:選択解除)
起動メソッド	ボタン押下可否を設定する (boolean)
<引数>	説明: ボタン押下可否 取得方法: 固定値 メソッド/値: false
接続先コンポーネント②	■ ボタン (ID:6, Key:↑)
起動メソッド	ボタン押下可否を設定する (boolean)
<引数>	説明: ボタン押下可否 取得方法: 固定値 メソッド/値: false
接続先コンポーネント③	■ ボタン (ID:7, Key:↓)
起動メソッド	ボタン押下可否を設定する (boolean)
<引数>	説明: ボタン押下可否 取得方法: 固定値 メソッド/値: false
接続先コンポーネント④	■ ボタン (ID:8, Key:削除)
起動メソッド	ボタン押下可否を設定する (boolean)
<引数>	説明: ボタン押下可否 取得方法: 固定値 メソッド/値: false

ボタンを有効化する

接続項目	接続関係
接続元コンポーネント (イベント発生コンポーネント)	■ サブルーチン (ID:10, Key:ボタン有効化)
発生イベント	アクションイベント
接続先コンポーネント①	■ ボタン (ID:5, Key:選択解除)
起動メソッド	ボタン押下可否を設定する (boolean)
<引数>	説明: ボタン押下可否 取得方法: 固定値 メソッド/値: true
接続先コンポーネント②	■ ボタン (ID:6, Key:↑)
起動メソッド	ボタン押下可否を設定する (boolean)
<引数>	説明: ボタン押下可否 取得方法: 固定値 メソッド/値: true
接続先コンポーネント③	■ ボタン (ID:7, Key:↓)
起動メソッド	ボタン押下可否を設定する (boolean)
<引数>	説明: ボタン押下可否 取得方法: 固定値 メソッド/値: true
接続先コンポーネント④	■ ボタン (ID:8, Key:削除)
起動メソッド	ボタン押下可否を設定する (boolean)
<引数>	説明: ボタン押下可否 取得方法: 固定値 メソッド/値: true

[選択解除] ボタンがクリックされたら [ボタン無効化] サブルーチン呼び出す

接続項目	接続関係
接続元コンポーネント (イベント発生コンポーネント)	■ ボタン (ID:5, Key:選択解除)
発生イベント	アクションイベント
接続先コンポーネント	■ サブルーチン (ID:9, Key:ボタン無効化)
起動メソッド	処理を呼び出す ()

行が選択されたら [ボタン有効化] サブルーチン呼び出す

接続項目	接続関係
接続元コンポーネント (イベント発生コンポーネント)	■ テーブル (ID:2)
発生イベント	データ選択イベント
接続先コンポーネント	■ サブルーチン (ID:10, Key:ボタン有効化)
起動メソッド	処理を呼び出す ()


アプリケーションが開始したら行の選択を解除してボタンを無効化する

接続項目	接続関係
接続元コンポーネント (イベント発生コンポーネント)	■ アプリケーション
発生イベント	アプリケーション開始イベント
接続先コンポーネント	■ ボタン (ID:5, Key:選択解除)
起動メソッド	doClick()

## 操作

サブルーチンの「処理を呼び出す()」が実行されたらボタンが「有効化/無効化」するように設定しましょう。

——ボタンを無効化する——

- ① 使用するイベントを選択し、コンポーネントを接続する準備をします。  
サブルーチンの処理を作成します。  
左側の [(ボタン無効化) サブルーチン(ID:9)] の上で右クリック - [イベント処理追加] - [アクションイベント] とクリックします。
- ② イベントの接続先コンポーネントを選びます。  
左側の [(ボタン無効化) サブルーチン(ID:9)] コンポーネントの [アクションイベント] 上で右クリック - [起動メソッド追加] とクリックします。薄灰色の四角い枠が追加されます。  
右側に追加された薄灰色の四角い枠にコンポーネントを割り当てます。  
右側に追加された薄灰色の四角い枠の上で右クリック - [接続コンポーネント選択] - [(選択解除) ボタン(ID:5)] コンポーネントをクリックします。
- ③ 接続したコンポーネントの処理を選びます。  
接続したコンポーネントの上で右クリック - [起動メソッド設定...] をクリックします。  
起動メソッド設定画面が表示されます。  
起動メソッド (処理) を選びます。  
[メソッド] の  をクリックします。  
[ボタン押下可否を設定する(boolean)] をクリックします。  
引数を設定します。  
説明: ボタン押下可否

取得方法：固定値

メソッド／値：false

設定後、**了解** ボタンをクリックします。

NO	型	説明	取得方法	コンポーネント	メソッド／値
0	boolean	ボタン押下可否	固定値	-	false

- ④ ②～③の処理をさらに3回繰り返し、[↑] ボタン、[↓] ボタン、[削除] ボタンのそれぞれを設定します。

——ボタンを有効化する——

- ⑤ 使用するイベントを選択し、コンポーネントを接続する準備をします。

サブルーチンの処理を作成します。

左側の [(ボタン有効化) サブルーチン(ID:10)] の上で右クリック — [イベント処理追加]

— [アクションイベント] とクリックします。

- ⑥ イベントの接続先コンポーネントを選びます。

左側の [(ボタン有効化) サブルーチン(ID:10)] コンポーネントの [アクションイベント] 上で右クリック — [起動メソッド追加] とクリックします。薄灰色の四角い枠が追加されます。

右側に追加された薄灰色の四角い枠にコンポーネントを割り当てます。

右側に追加された薄灰色の四角い枠の上で右クリック — [接続コンポーネント選択] —

[(選択解除) ボタン(ID:5)] コンポーネントをクリックします。

- ⑦ 接続したコンポーネントの処理を選びます。

接続したコンポーネントの上で右クリック — [起動メソッド設定...] をクリックします。

起動メソッド設定画面が表示されます。

起動メソッド (処理) を選びます。

[メソッド] の  をクリックします。

[ボタン押下可否を設定する(boolean)] をクリックします。

引数を設定します。

説明：ボタン押下可否

取得方法：固定値

メソッド／値：true

設定後、**了解** ボタンをクリックします。


NO	型	説明	取得方法	コンポーネント	メソッド／値
0	boolean	ボタン押下可否	固定値	-	true

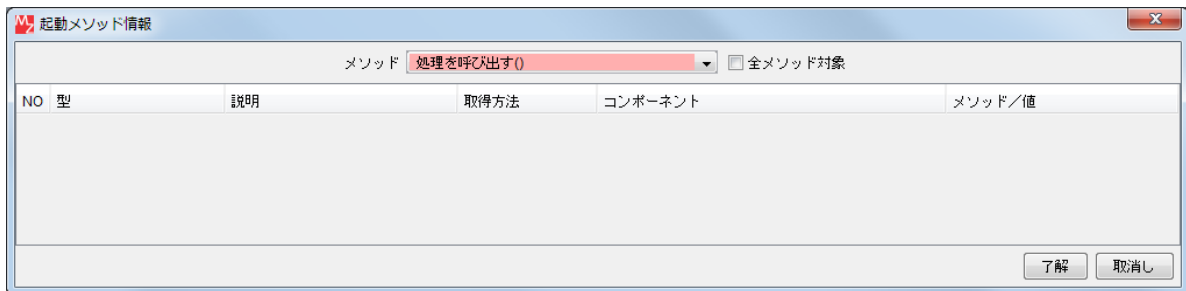


- ⑧ ⑥～⑦の処理をさらに3回繰り返し、[↑] ボタン、[↓] ボタン、[削除] ボタンのそれぞれを設定します。


—— [選択解除] ボタンがクリックされたら [ボタン無効化] サブルーチン呼び出す ——

- ⑨ イベントの接続先コンポーネントを選びます。  
左側の [(選択解除) ボタン(ID:5)] コンポーネントの [アクションイベント] 上で右クリック— [起動メソッド追加] とクリックします。薄灰色の四角い枠が追加されます。  
右側に追加された薄灰色の四角い枠にコンポーネントを割り当てます。  
右側に追加された薄灰色の四角い枠の上で右クリック— [接続コンポーネント選択] — [(ボタン無効化) サブルーチン(ID:9)] コンポーネントをクリックします。

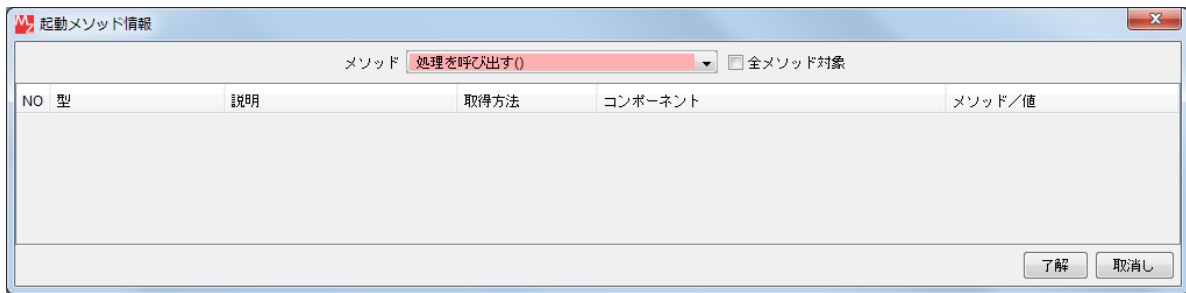
- ⑩ 接続したコンポーネントの処理を選びます。  
接続したコンポーネントの上で右クリック— [起動メソッド設定...] をクリックします。  
起動メソッド設定画面が表示されます。  
起動メソッド (処理) を選びます。  
[メソッド] の  をクリックします。  
[処理を呼び出す()] をクリックします。  
設定後、**了解** ボタンをクリックします。



—— テーブルがクリックされたら [ボタン有効化] サブルーチン呼び出す ——

- ⑪ 使用するイベントを選択し、コンポーネントを接続する準備をします。  
[テーブル(ID:2)] の処理を作成します。  
左側の [テーブル(ID:2)] の上で右クリック— [イベント処理追加] — [データ選択イベント] とクリックします。
- ⑫ イベントの接続先コンポーネントを選びます。  
左側の [テーブル(ID:2)] コンポーネントの [データ選択イベント] 上で右クリック— [起動メソッド追加] とクリックします。薄灰色の四角い枠が追加されます。  
右側に追加された薄灰色の四角い枠にコンポーネントを割り当てます。  
右側に追加された薄灰色の四角い枠の上で右クリック— [接続コンポーネント選択] — [(ボタン有効化) サブルーチン(ID:10)] コンポーネントをクリックします。
- ⑬ 接続したコンポーネントの処理を選びます。  
接続したコンポーネントの上で右クリック— [起動メソッド設定...] をクリックします。  
起動メソッド設定画面が表示されます。  
起動メソッド (処理) を選びます。  
[メソッド] の  をクリックします。

[処理を呼び出す()] をクリックします。  
設定後、**了解** ボタンをクリックします。



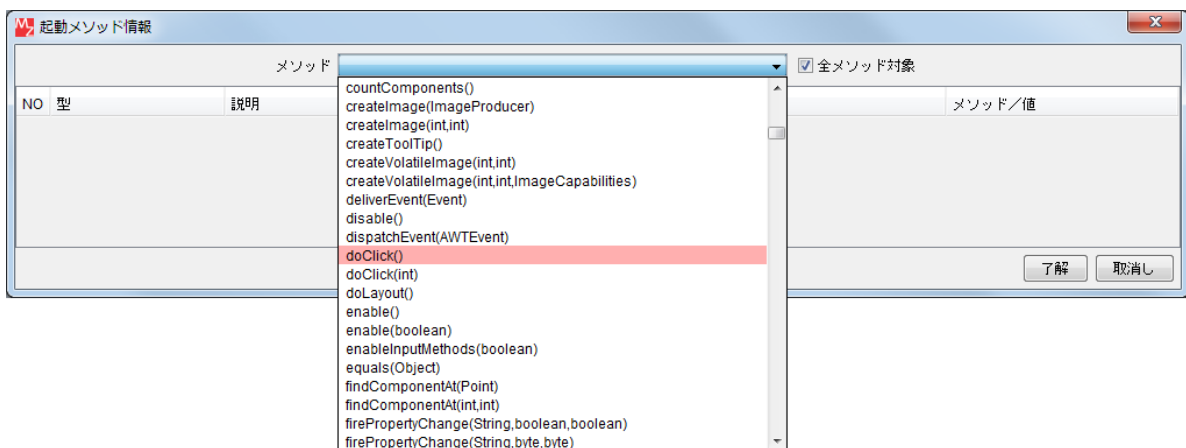
——アプリケーションが開始したら行の選択を解除してボタンを無効化する——

- ⑭ イベントの接続先コンポーネントを選びます。

左側の [アプリケーション] コンポーネントの [アプリケーション開始イベント] 上で  
右クリック → [起動メソッド追加] とクリックします。薄灰色の四角い枠が追加されます。  
右側に追加された薄灰色の四角い枠にコンポーネントを割り当てます。  
右側に追加された薄灰色の四角い枠の上で右クリック → [接続コンポーネント選択] →  
[(選択解除) ボタン] コンポーネントをクリックします。

- ⑮ 接続したコンポーネントの処理を選びます。

接続したコンポーネントの上で右クリック → [起動メソッド設定...] をクリックします。  
起動メソッド設定画面が表示されます。  
起動メソッド (処理) を選びます。  
日本語化されていないメソッドなので [全メソッド対象] をチェックします。  
[メソッド] の ▼ をクリックします。  
[doClick()] をクリックします。  
設定後、**了解** ボタンをクリックします。



- ⑯ 設定できたことを確認します。

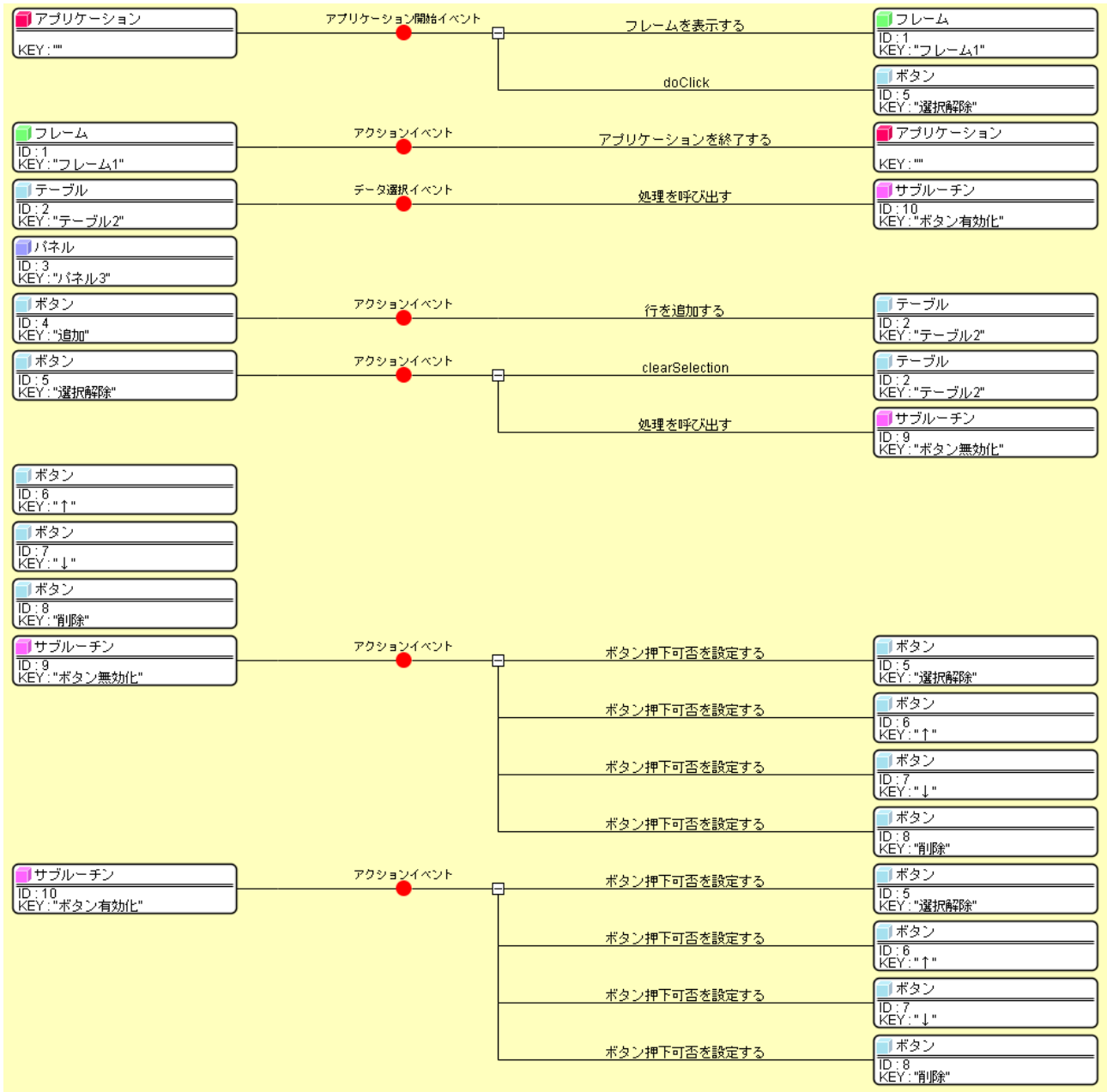
**実行 (設定可)** で実行します。

任意の行を選択しボタンが有効になることを確認します。

[(選択解除) ボタン] をクリックしてボタンが無効になることを確認します。

# まとめ

ここまで進めるとビルダー上では以下ようになります。

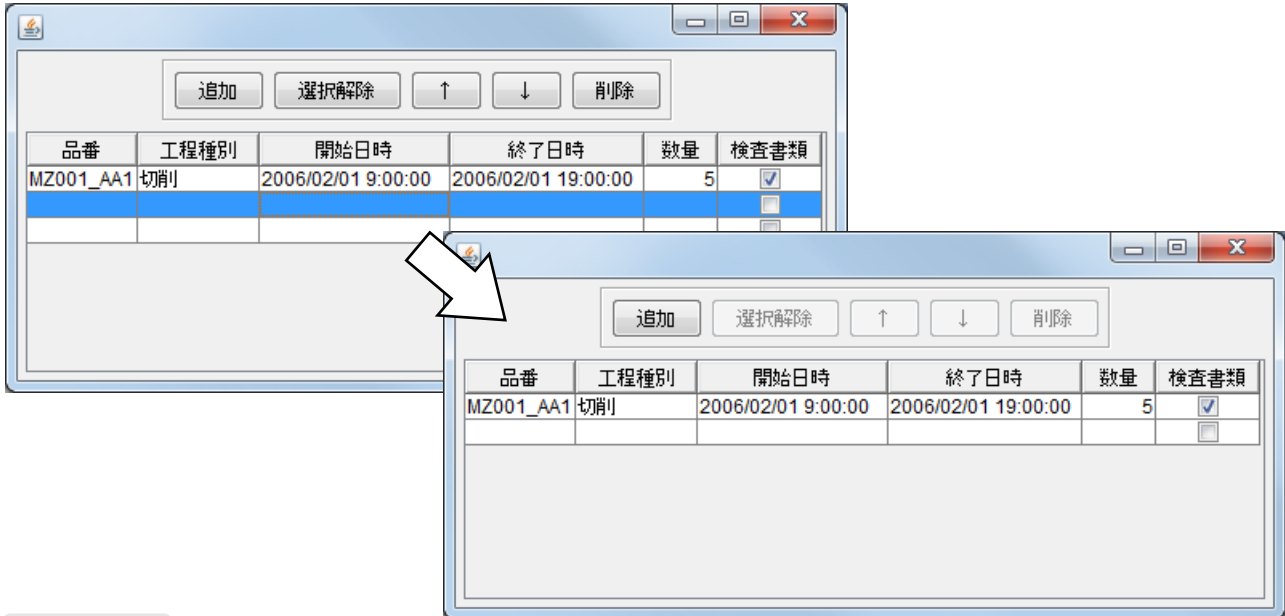


## Step.9 行を削除する

[削除] ボタンを設定します。[削除] ボタンをクリックしたら選択されている行を1行削除するようにします。

### 完成図

以下のように完成しましょう。



### 考え方

1. 不要な行を選択する
2. [削除] ボタンをクリックする
3. 選択した行が削除される

### 接続確認

コンポーネント同士の接続を確認します。

#### 1行削除する①

接続項目	接続関係
接続元コンポーネント (イベント発生コンポーネント)	■ ボタン (ID:8, Key:削除)
発生イベント	アクションイベント
接続先コンポーネント①	■ テーブル (ID:2)
起動メソッド <引数>	特定行を削除する(int) 説明: 削除対象行の位置 取得方法: メソッド戻り値 コンポーネント: テーブル (ID:2) メソッド/値: 選択行の位置を取得する

選択を解除する②

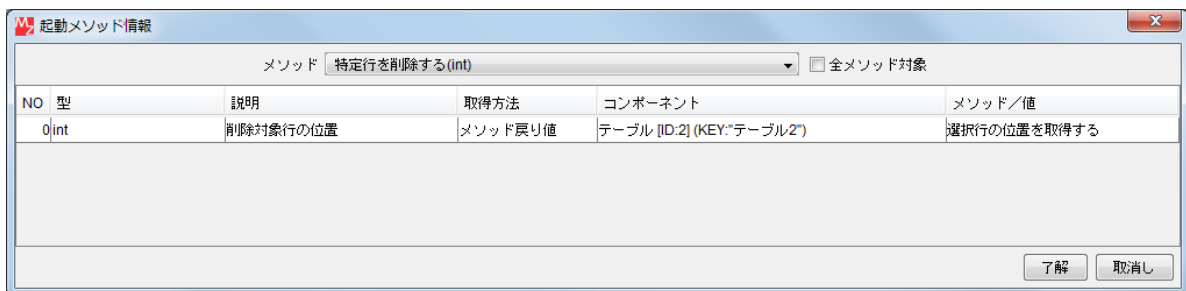
接続先コンポーネント②	■ ボタン (ID:5, Key:選択解除)
起動メソッド	doClick()

**操作**

[(削除) ボタン] をクリックしたら選択されている 1 行が削除されるようにしましょう。

1 行削除する①

- ① 使用するイベントを選択し、コンポーネントを接続する準備をします。  
 左側の [(削除) ボタン(ID:8)] コンポーネントの上で右クリック - [イベント処理追加] - [アクションイベント] とクリックします。
- ② イベントの接続先コンポーネントを選びます。  
 左側の [(削除) ボタン(ID:8)] コンポーネントの [アクションイベント] 上で右クリック - [起動メソッド追加] とクリックします。薄灰色の四角い枠が追加されます。  
 右側に追加された薄灰色の四角い枠にコンポーネントを割り当てます。  
 右側に追加された薄灰色の四角い枠の上で右クリック - [接続コンポーネント選択] - [テーブル(ID:2)] コンポーネントをクリックします。
- ③ 接続したコンポーネントの処理を選びます。  
 接続したコンポーネントの上で右クリック - [起動メソッド設定...] をクリックします。  
 起動メソッド設定画面が表示されます。  
 起動メソッド (処理) を選びます。  
 [メソッド] の  をクリックします。  
 [特定行を削除する(int)] をクリックします。  
 引数を設定します。  
 説明：削除対象行の位置  
 取得方法：メソッド戻り値  
 コンポーネント：テーブル  
 メソッド/値：選択行の位置を取得する  
 設定後、**了解** ボタンをクリックします。



——— 選択を解除する ② ———

- ④ イベントの接続先コンポーネントを選びます。

左側の [(削除) ボタン(ID:8)] コンポーネントの [アクションイベントイベント] 上で  
右クリック [起動メソッド追加] とクリックします。薄灰色の四角い枠が追加されます。

右側に追加された薄灰色の四角い枠にコンポーネントを割り当てます。

右側に追加された薄灰色の四角い枠の上で右クリック [接続コンポーネント選択] —

[(選択解除) ボタン(ID:5)] コンポーネントをクリックします。

- ⑤ 接続したコンポーネントの処理を選びます。

接続したコンポーネントの上で右クリック [起動メソッド設定...] をクリックします。

起動メソッド設定画面が表示されます。

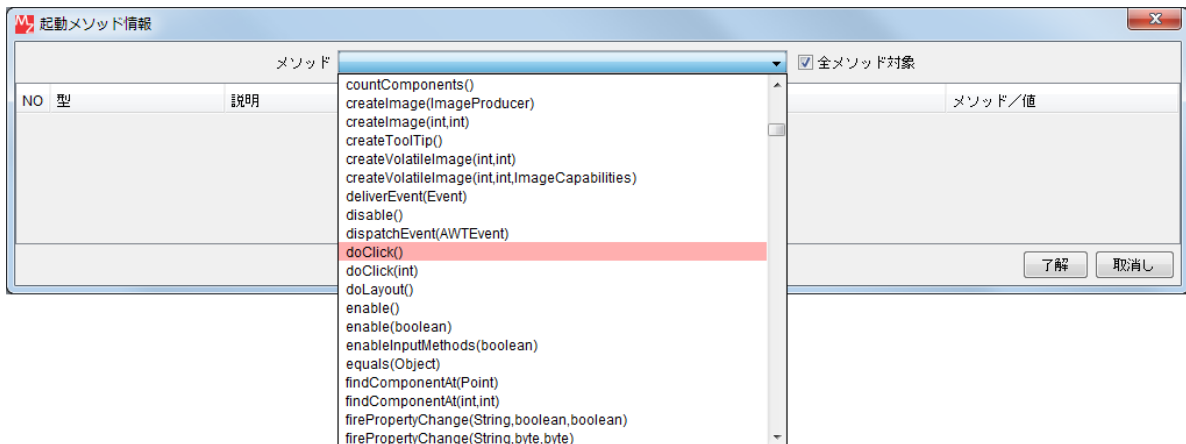
起動メソッド (処理) を選びます。

日本語化されていないメソッドなので、[全メソッド対象] をチェックします。

[メソッド] の  をクリックします。

[doClick()] をクリックします。

設定後、**了解** ボタンをクリックします。



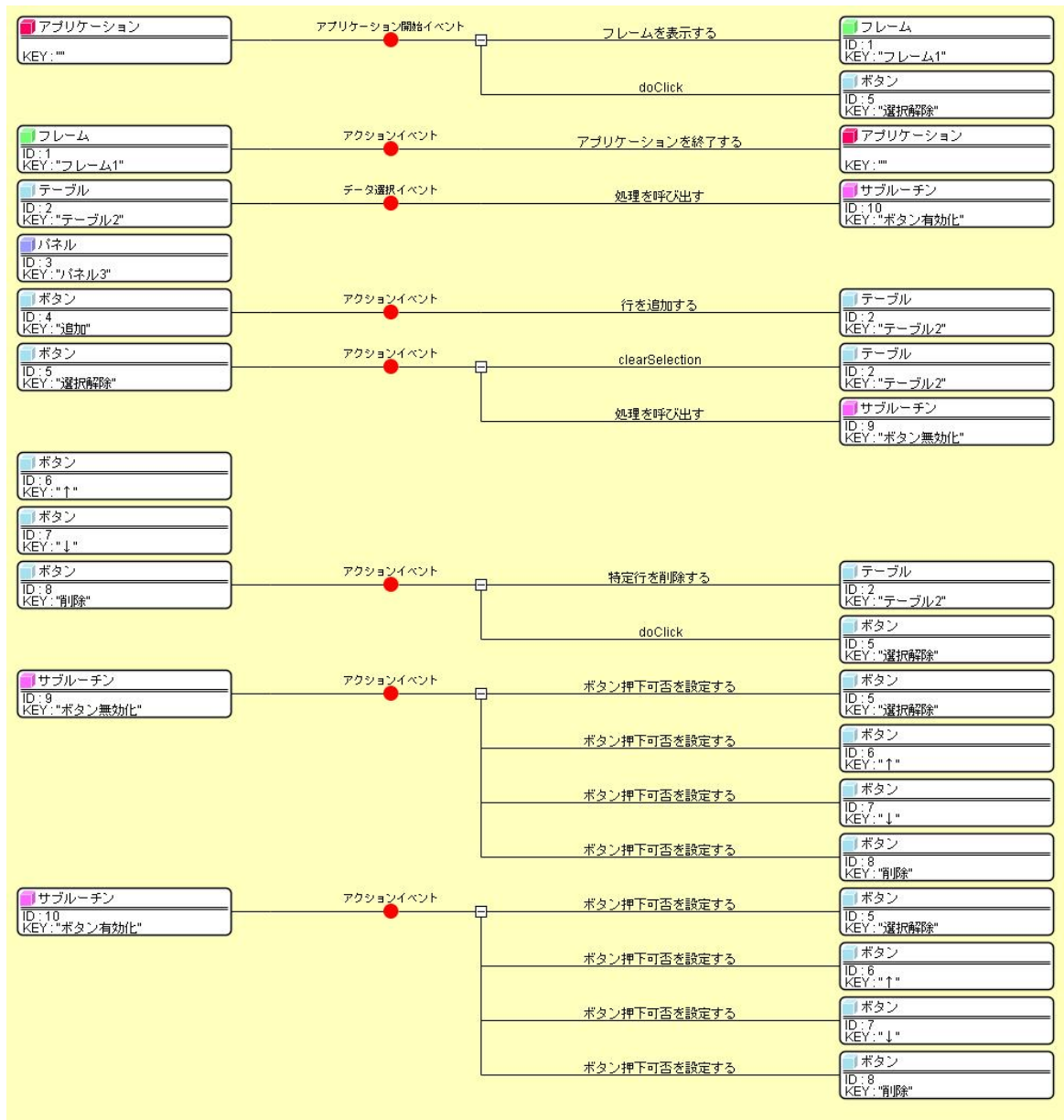
- ⑥ 設定できたことを確認します。

**実行 (設定可)** で実行します。

任意の行を選択し、[(削除) ボタン] をクリックしたら行が削除されることを確認します。

# まとめ

ここまで進めるとビルダー上では以下ようになります。



## Step.10 選択されている行を上・下に動かす

選択されている行を上・下に動かして、テーブル内の行の順番を変えることができます。

テーブルのデータは一旦すべて変数に格納されます。

変数の中で行を指定します。

### 1) 変数

データを一時的に記憶しておく（格納しておく）領域を変数といいます。主なものは以下のとおりです。

変 数 名	役 割
文字列格納変数	文字列が格納できる変数 変数に入る文字数は制限なし
任意精度実数 (BigDecimal) 格納変数	実数が格納できる変数
任意精度整数 (BigInteger) 格納変数	整数が格納できる変数
リスト格納変数	リストが格納できる (リストにリストが格納できる)
テーブル格納変数	テーブルが格納できる変数

### 2) 選択されている行を移動する

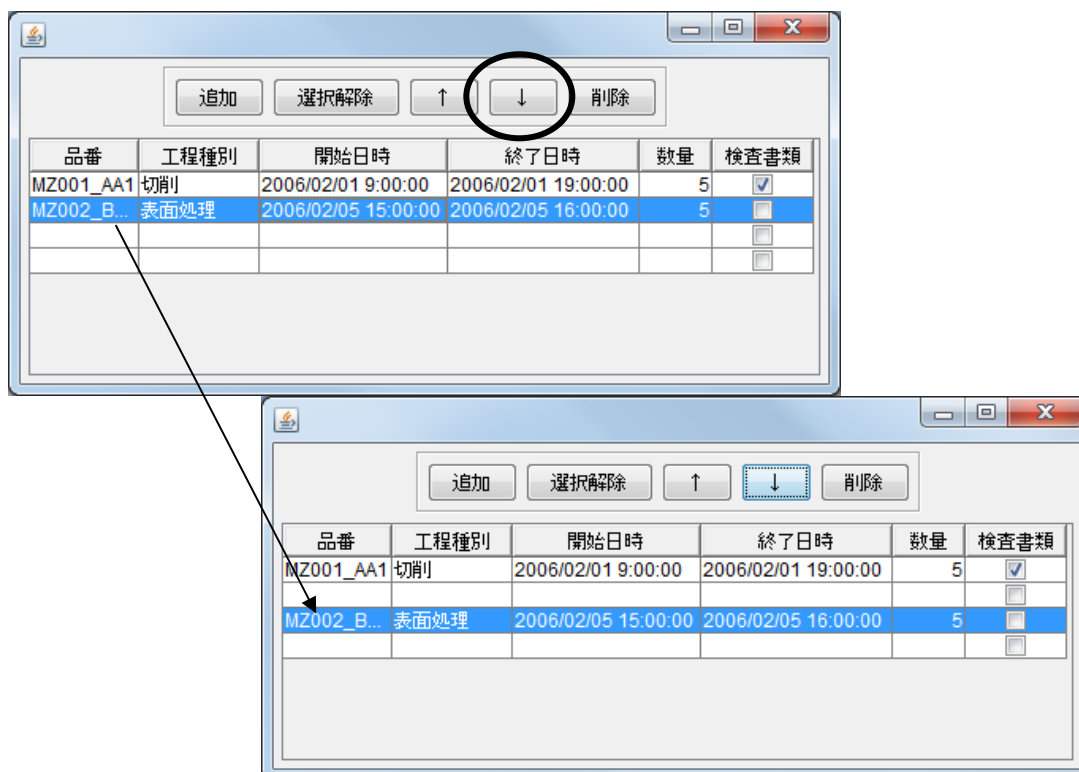
選択されている行を上・下に動かして、テーブル内の行の順番を変えることができます。

テーブルのデータは一旦すべて変数に格納されます。

変数の中で行を指定し移動します。

#### 完成図

以下のように完成しましょう。(選択している行が1行下がります)





## 考え方

1. 移動したい行を選択する
2. テーブル全体を一時的に変数に格納する
3. [↑] [↓] をクリックするとデータが行ごと移動する

## 準備

ここでは以下のコンポーネントを使用します。

コンポーネント名	必要数	
■テーブル格納変数	1	[処理部品] - [変数] - [テーブル格納変数]

## 操作

- ① 必要なコンポーネントを追加します。  
作業領域で右クリック - [コンポーネント追加] - [処理部品] - [変数] - [テーブル格納変数]  
と順にクリックし追加します。

## 接続確認

コンポーネント同士の接続を確認します。

[↑] ボタンをクリックしたらテーブル全体を [テーブル格納変数] に格納する①

接続項目	接続関係
接続元コンポーネント (イベント発生コンポーネント)	■ボタン (ID:6, Key: ↑)
発生するイベント	アクションイベント
接続先コンポーネント①	■テーブル格納変数 (ID:11)
起動メソッド	テーブルを設定する (PFObjectTable)
<引数>	説明: 設定するテーブル 取得方法: メソッド戻り値 コンポーネント: テーブル (ID:2) メソッド/値: テーブルデータを取得する

行位置のインデックスを1つ減らす②

接続先コンポーネント②	■ テーブル格納変数 (ID:11)
起動メソッド	指定行位置インデックスを1つ減らす(int)
<引数>	説明：指定行インデックス 取得方法：メソッド戻り値 コンポーネント：テーブル (ID:2) メソッド/値：選択行の位置を取得する

選択されている行位置を取得し、選択状態に設定する③

接続先コンポーネント③	■ テーブル (ID:2)
起動メソッド	選択行を指定する(int, int)
<引数0>	取得方法：メソッド戻り値 コンポーネント：テーブル格納変数 (ID:11) メソッド/値：行の選択位置を取得する
<引数1>	取得方法：メソッド戻り値 コンポーネント：テーブル格納変数 (ID:11) メソッド/値：行の選択位置を取得する

[↓] ボタンをクリックしたらテーブル全体を [テーブル格納変数] に格納する①

接続項目	接続関係
接続元コンポーネント (イベント発生コンポーネント)	■ ボタン (ID:7, Key:↓)
発生するイベント	アクションイベント
接続先コンポーネント①	■ テーブル格納変数 (ID:11)
起動メソッド	テーブルを設定する(PFObjectTable)
<引数>	説明：設定するテーブル 取得方法：メソッド戻り値 コンポーネント：テーブル (ID:2) メソッド/値：テーブルデータを取得する

行位置のインデックスを1つ増やす②

接続先コンポーネント②	■ テーブル格納変数 (ID:11)
起動メソッド	指定行位置インデックスを1つ増やす(int)
<引数>	説明：指定行インデックス 取得方法：メソッド戻り値 コンポーネント：テーブル (ID:2) メソッド/値：選択行の位置を取得する

選択されている行位置を取得し、選択状態に設定する③

接続先コンポーネント③	■テーブル (ID:2)
起動メソッド	選択行を指定する(int, int)
<引数0>	取得方法：メソッド戻り値 コンポーネント：テーブル格納変数 (ID:11) メソッド/値：行の選択位置を取得する
<引数1>	取得方法：メソッド戻り値 コンポーネント：テーブル格納変数 (ID:11) メソッド/値：行の選択位置を取得する

移動後のテーブルのデータをテーブルに再設定する

接続項目	接続関係
接続元コンポーネント (イベント発生コンポーネント)	■テーブル格納変数 (ID:11)
発生するイベント	データ更新イベント
接続先コンポーネント	■テーブル (ID:2)
起動メソッド	テーブルデータを設定する(PFObjectTable)
<引数>	説明：テーブルデータ 取得方法：イベント内包 メソッド/値：イベント対象データ

## 操作

[↑] ボタンをクリックしたら選択されている1行が上に移動するようにしましょう。

- ① 使用するイベントを選択し、コンポーネントを接続する準備をします。

左側の [(↑) ボタン(ID:6)] コンポーネントの上で右クリックー [イベント処理追加]  
ー [アクションイベント] とクリックします。

——— [(↑) ボタンをクリックしたらテーブル全体を [テーブル格納変数] に格納する①] ———

- ② イベントの接続先コンポーネントを選びます。

左側の [(↑) ボタン(ID:6)] コンポーネントの [アクションイベント] 上で  
右クリックー [起動メソッド追加] とクリックします。薄灰色の四角い枠が追加されます。  
右側に追加された薄灰色の四角い枠にコンポーネントを割り当てます。

右側に追加された薄灰色の四角い枠の上で右クリックー [接続コンポーネント選択] ー  
[テーブル格納変数(ID:11)] コンポーネントをクリックします。

- ③ 接続したコンポーネントの処理を選びます。

接続したコンポーネントの上で右クリックー [起動メソッド設定...] をクリックします。  
起動メソッド設定画面が表示されます。  
起動メソッド (処理) を選びます。

[メソッド] の  をクリックします。

[テーブルを設定する(PFObjectTable)] をクリックします。  
引数を設定します。

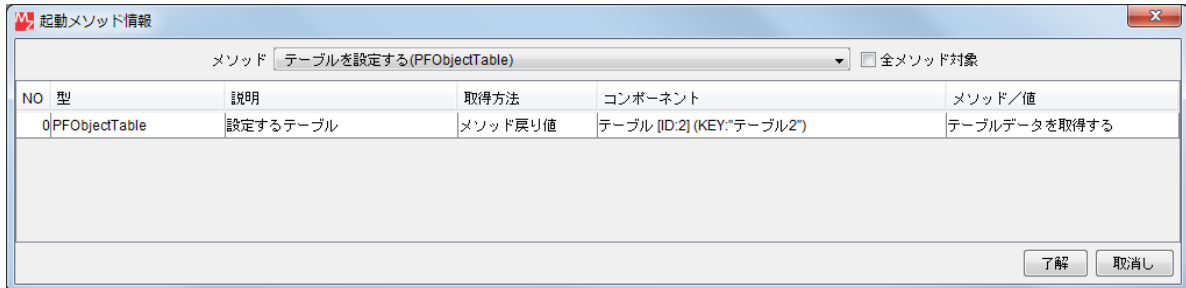
説明：設定するテーブル

取得方法：メソッド戻り値

コンポーネント：テーブル

メソッド/値：テーブルデータを取得する

設定後、**了解** ボタンをクリックします。




———行位置のインデックスを1つ減らす②———

④ イベントの接続先コンポーネントを選びます。

左側の [(↑) ボタン(ID:6)] コンポーネントの [アクションイベント] 上で  
右クリック— [起動メソッド追加] とクリックします。薄灰色の四角い枠が追加されます。  
右側に追加された薄灰色の四角い枠にコンポーネントを割り当てます。  
右側に追加された薄灰色の四角い枠の上で右クリック— [接続コンポーネント選択] —  
[テーブル格納変数(ID:11)] コンポーネントをクリックします。

⑤ 接続したいコンポーネントの処理を選びます。

接続したいコンポーネントの上で右クリック— [起動メソッド設定...] をクリックします。  
起動メソッド設定画面が表示されます。  
起動メソッド (処理) を選びます。  
[メソッド] の  をクリックします。  
[指定行の位置インデックスを1つ減らす(int)] をクリックします。  
引数を設定します。

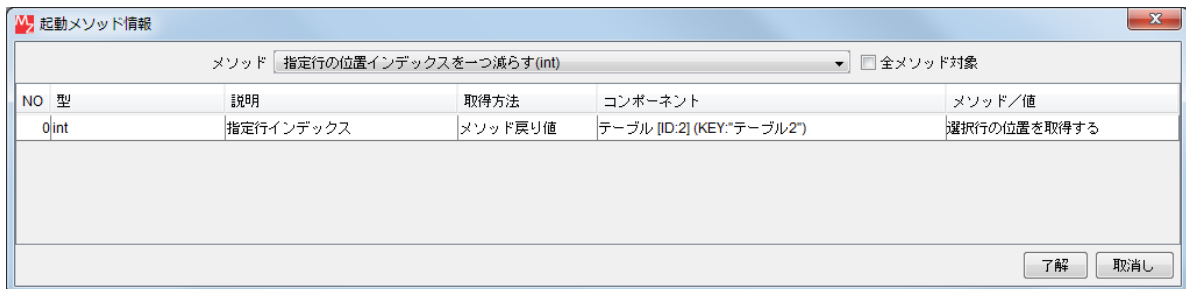
説明：指定行インデックス

取得方法：メソッド戻り値

コンポーネント：テーブル

メソッド/値：選択行の位置を取得する

設定後、**了解** ボタンをクリックします。



———選択されている行位置を取得する③———

- ⑥ イベントの接続先コンポーネントを選びます。

左側の [(↑) ボタン(ID:6)] コンポーネントの [アクションイベント] 上で  
右クリック [起動メソッド追加] とクリックします。薄灰色の四角い枠が追加されます。  
右側に追加された薄灰色の四角い枠にコンポーネントを割り当てます。  
右側に追加された薄灰色の四角い枠の上で右クリック [接続コンポーネント選択] –  
[テーブル(ID:2)] コンポーネントをクリックします。

- ⑦ 接続したコンポーネントの処理を選びます。

接続したコンポーネントの上で右クリック [起動メソッド設定...] をクリックします。  
起動メソッド設定画面が表示されます。

起動メソッド (処理) を選びます。

[メソッド] の  をクリックします。

[**選択行を指定する**(int, int)] をクリックします。

引数0を設定します。

説明：開始行の位置

取得方法：メソッド戻り値

コンポーネント：テーブル格納変数

メソッド/値：行の選択位置を取得する

引数1を設定します。

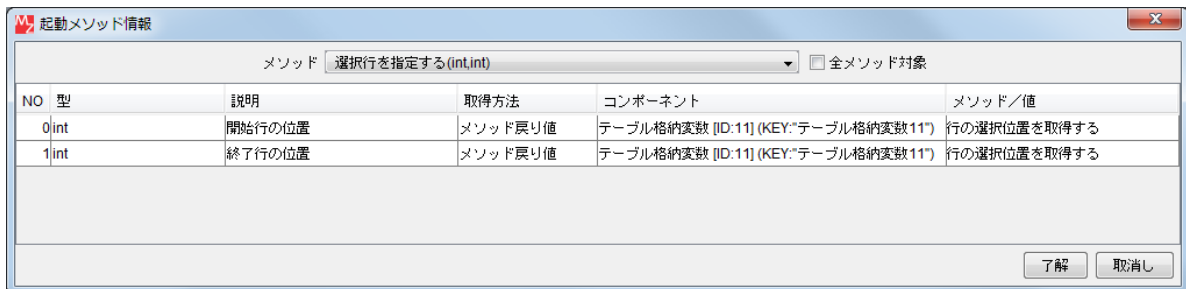
説明：終了行の位置

取得方法：メソッド戻り値

コンポーネント：テーブル格納変数

メソッド/値：行の選択位置を取得する

設定後、**了解** ボタンをクリックします。




## 操作

[↓] ボタンをクリックしたら選択されている 1 行が下に移動するようにしましょう。

- ① 使用するイベントを選択し、コンポーネントを接続する準備をします。  
左側の [(↓) ボタン(ID:7)] コンポーネントの上で右クリック → [イベント処理追加]  
→ [アクションイベント] とクリックします。

———— [(↓) ボタンをクリックしたらテーブル全体を [テーブル格納変数] に格納する ① ————

- ② イベントの接続先コンポーネントを選びます。  
左側の [(↓) ボタン(ID:7)] コンポーネントの [アクションイベント] 上で  
右クリック → [起動メソッド追加] とクリックします。薄灰色の四角い枠が追加されます。  
右側に追加された薄灰色の四角い枠にコンポーネントを割り当てます。  
右側に追加された薄灰色の四角い枠の上で右クリック → [接続コンポーネント選択] →  
[テーブル格納変数(ID:11)] コンポーネントをクリックします。


- ③ 接続したコンポーネントの処理を選びます。  
接続したコンポーネントの上で右クリック → [起動メソッド設定...] をクリックします。  
起動メソッド設定画面が表示されます。  
起動メソッド (処理) を選びます。  
[メソッド] の  をクリックします。  
[テーブルを設定する(PFObjectTable)] をクリックします。  
引数を設定します。  
説明：設定するテーブル  
取得方法：メソッド戻り値  
コンポーネント：テーブル  
メソッド/値：テーブルデータを取得する  
設定後、**了解** ボタンをクリックします。



———— 行位置のインデックスを 1 つ増やす ② ————

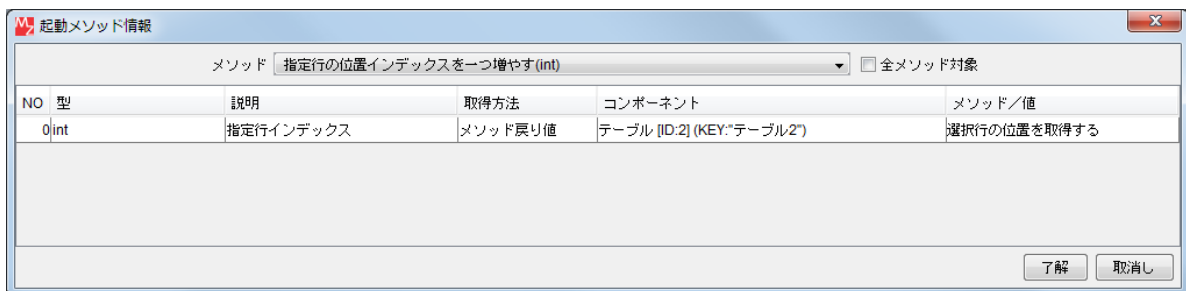
- ④ イベントの接続先コンポーネントを選びます。  
左側の [(↓) ボタン(ID:7)] コンポーネントの [アクションイベント] 上で  
右クリック → [起動メソッド追加] とクリックします。薄灰色の四角い枠が追加されます。  
右側に追加された薄灰色の四角い枠にコンポーネントを割り当てます。  
右側に追加された薄灰色の四角い枠の上で右クリック → [接続コンポーネント選択] →  
[テーブル格納変数(ID:11)] コンポーネントをクリックします。

- ⑤ 接続したいコンポーネントの処理を選びます。

接続したいコンポーネントの上で右クリックー [起動メソッド設定...] をクリックします。  
 起動メソッド設定画面が表示されます。  
 起動メソッド (処理) を選びます。  
 [メソッド] の  をクリックします。  
 [指定行の位置インデックスを1つ増やす(int)] をクリックします。  
 引数を設定します。


説明：指定行インデックス  
 取得方法：メソッド戻り値  
 コンポーネント：テーブル  
 メソッド/値：**選択行の位置を取得する**

設定後、**了解** ボタンをクリックします。



——— 選択されている行位置を取得する ③ ———

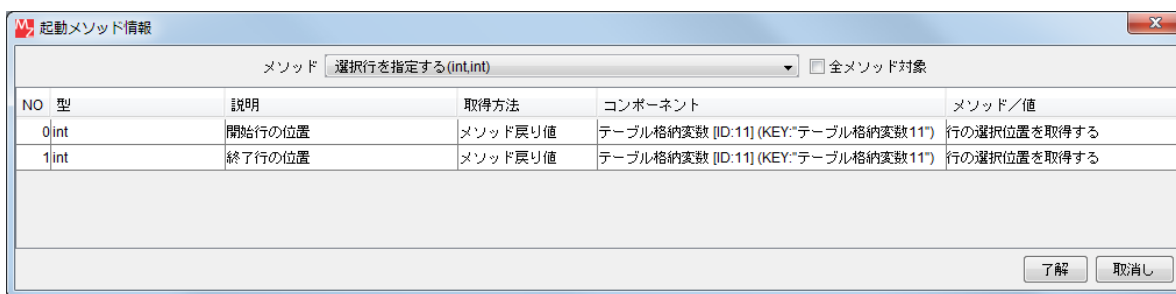
⑥ イベントの接続先コンポーネントを選びます。  
 左側の [(↓) ボタン(ID:7)] コンポーネントの [アクションイベント] 上で  
 右クリックー [起動メソッド追加] とクリックします。薄灰色の四角い枠が追加されます。  
 右側に追加された薄灰色の四角い枠にコンポーネントを割り当てます。  
 右側に追加された薄灰色の四角い枠の上で右クリックー [接続コンポーネント選択] —  
 [テーブル(ID:11)] コンポーネントをクリックします。

⑦ 接続したコンポーネントの処理を選びます。  
 接続したコンポーネントの上で右クリックー [起動メソッド設定...] をクリックします。  
 起動メソッド設定画面が表示されます。  
 起動メソッド (処理) を選びます。  
 [メソッド] の  をクリックします。  
 [選択行を指定する(int, int)] をクリックします。  
 引数0を設定します。

説明：開始行の位置  
 取得方法：メソッド戻り値  
 コンポーネント：テーブル格納変数  
 メソッド/値：行の選択位置を取得する

引数1を設定します。  
 説明：終了行の位置  
 取得方法：メソッド戻り値  
 コンポーネント：テーブル格納変数  
 メソッド/値：行の選択位置を取得する

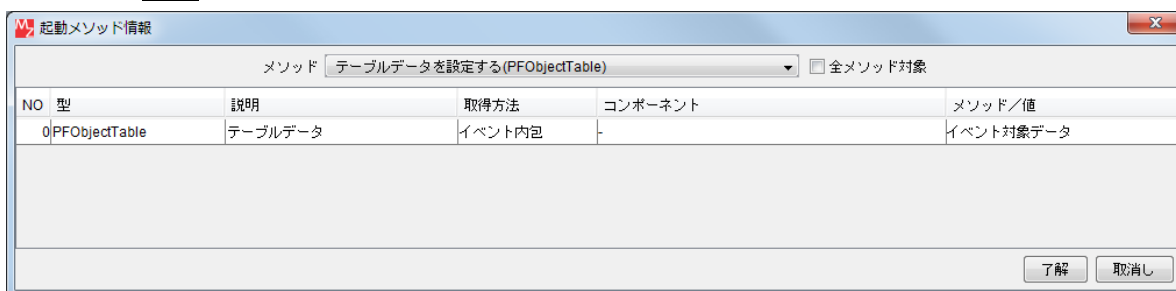
設定後、**了解** ボタンをクリックします。



## 操作

行移動後のテーブルデータをテーブルに設定しましょう。

- ① 使用するイベントを選択し、コンポーネントを接続する準備をします。  
左側の [テーブル格納変数 (ID:11)] コンポーネントの上で右クリック - [イベント処理追加] - [データ更新イベント] とクリックします。
- ② イベントの接続先コンポーネントを選びます。  
左側の [テーブル格納変数 (ID:11)] コンポーネントの [データ更新イベント] 上で右クリック - [起動メソッド追加] とクリックします。薄灰色の四角い枠が追加されます。  
右側に追加された薄灰色の四角い枠にコンポーネントを割り当てます。  
右側に追加された薄灰色の四角い枠の上で右クリック - [接続コンポーネント選択] - [テーブル (ID:2)] コンポーネントをクリックします。
- ③ 接続したコンポーネントの処理を選びます。  
接続したコンポーネントの上で右クリック - [起動メソッド設定...] をクリックします。  
起動メソッド設定画面が表示されます。  
起動メソッド (処理) を選びます。  
[メソッド] の ▼ をクリックします。  
[テーブルデータを設定する (PFObjectTable)]  
引数を設定します。  
説明: テーブルデータ  
取得方法: イベント内包  
メソッド/値: イベント対象データ  
設定後、**了解** ボタンをクリックします。



- ④ 設定できたことを確認します。  
**実行 (設定可)** で実行します。  
任意の行を選択し、[↑] [↓] で選択した行が移動することを確認します。



# まとめ

ここまで進めるとビルダー上では以下ようになります。

